

\* 0044916000 \*

0044916-000

272-202

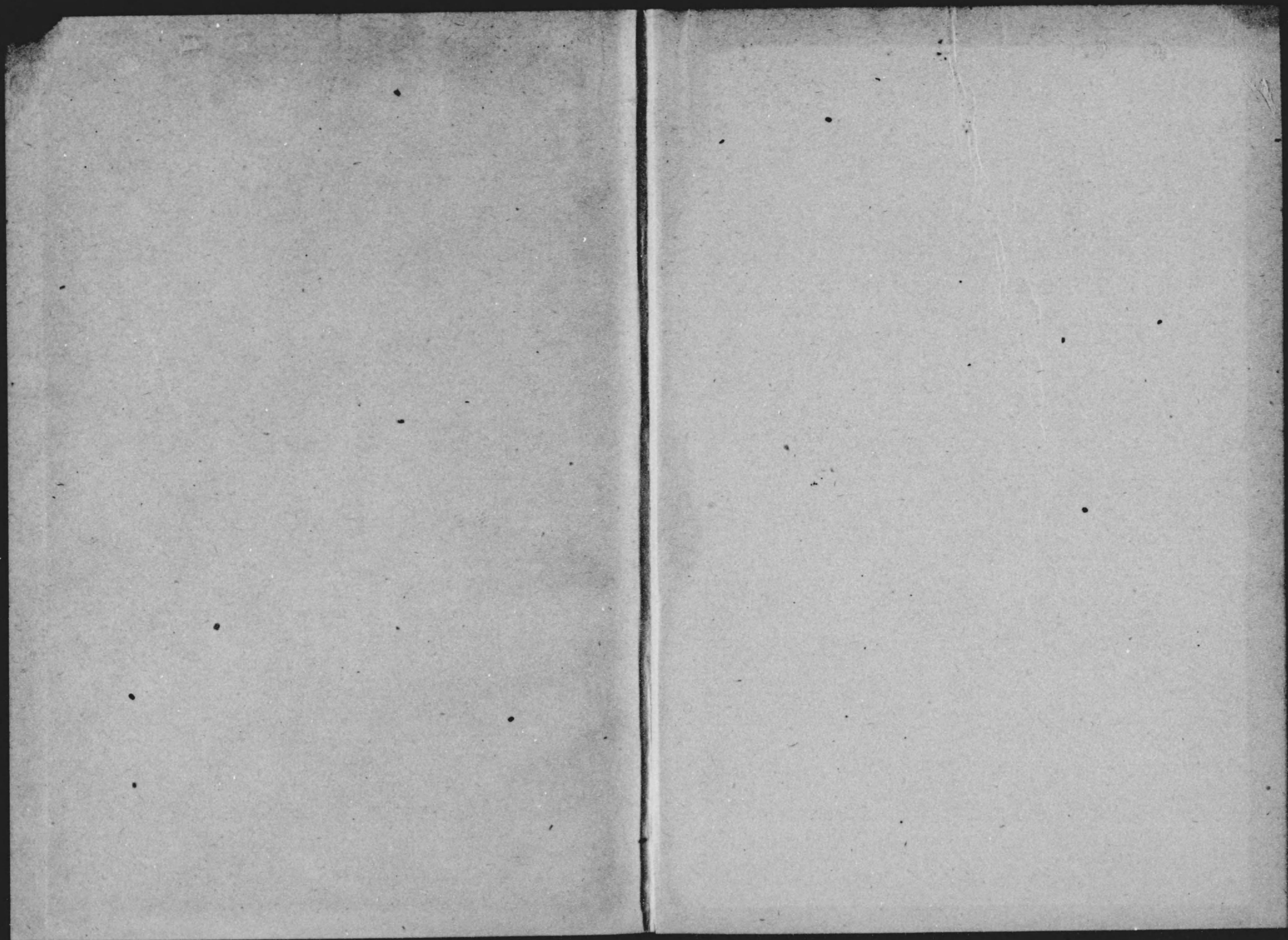
学童隊訓練の構想と実際

増田勲・著

晃文社

昭和16

AHF



學童隊訓練の構想と實際



奈良女子高等師範學校訓導

增田勳著



發 兌

社



旻

1. 273  
202

## 序

本書は奈良市内の済美國民學校の高等科に於いて實施されてゐる生活訓練のルポルタージュであつて、久保田浩君がその記録者である。

済美校の高等科は勝野正三君を中心に竹中良君、東谷保夫君、久保田浩君、石井通敬君の五人にて擔任されてゐて、その交りは全く運命的な共屬感が深い。勝野君とは小生が奈良に赴任して來た當時からの親交があつて、君の熱烈なる愛國心と、實踐力は深く敬する所であり、二人が夜を徹して語つたことは珍しくない。

勝野君が四人の同志と共に小生の宅を訪ねて下さつたのは五月の初めである。農村の教育者として十幾年か行じて來た君には、今春初めて體驗する都市の教育が、あまりにも知識的であるのに驚き、且あきれ、新しい發足を願つたのである。その日は國民學校の經營、殊に高學年の經營について、不思議に眞剣な論争が展開された。

五人はこの日を轉機として、國民學校の神髓を最も如實に生かすべき實踐構想をねつた。そ

して遂に學級をといて隊組織を行ひ、更に學級別の時間割を組かへて、學級主義と學科主義教育の一體化を圖り、五人は教室の一方に机を持寄つて經營の一切を協議した。尙計畫と實踐については小生との間に緊密な連絡がとられるやうになつた。随つて小生も時間のゆるす限り、計畫會議にも、訓練の實際にも参加した。指導者諸君の努力は日毎に報いられ、兒童の眼は希望に輝き、身體はたくましさを増し、互ひの間には言葉でいへない和が流れた。この精神的一體感は、市の聯合體育大會に、全く問題にされてゐなかつた午前の成績からの豫想をうら切つて、優勝の榮冠を擔はしめた。こゝに至つて濟美校は初等科も同一の線に沿つて經營すべく、全校擧げてその實踐構想が検討されるやうになり、着々實行に移されるやうになつた。今靜かに短い間ではあるが、跡を顧みて「建設途上記」を世に問ふことの無駄でないことを信じ、あへて小著を世に送る次第である。

現下の時局は愈々重大である。小著が邦家のためにいさゝかでも益する所があれば幸である。

昭和十六年十月十二日

増田 勳

## 學童隊訓練の構想と實際 目次

一 新しい構想の必要 ..... (一)

1 小學校から國民學校へ ..... (一)

    轉換日本 ..... (一)

    國民學校の誕生 ..... (三)

    眞使命の理解 ..... (三)

    新しい構想 ..... (四)

2 青少年團との一體化 ..... (五)

    行動日本 ..... (五)

    新青少年團の誕生 ..... (六)

    青少年指導の新様相 ..... (七)

3 皇民の鍊成 ..... (八)

    知識人から行動人 ..... (八)

    世界觀の確立 ..... (一〇)

4 機構の生命 ..... (一一)

    日本形態による生活 ..... (二)

    組織化された産業人 ..... (三)

二 指導の構想と機構 ..... (一四)

1 小學校の兒童……………(一四)

過去の優等生……………(一四)

學校と家庭と社會……………(一五)

活動する姿……………(一六)

2 國民學校の兒童……………(一七)

ヨイコドモ……………(一七)

戰爭と子供……………(一八)

新實踐構想……………(二〇)

3 私の學級經營……………(二一)

子供への話……………(二二)

子供等の會合……………(二三)

級訓三ヶ條……………(二三)

學級の組織化……………(二四)

心の故郷としての學級……………(二五)

4 學級經營から學年經營へ……………(二六)

新展開……………(二六)

結成式……………(二七)

學年の組織化……………(二七)

三 幹部の指導……………(三〇)

1 幹部教育の時代的意義……………(三〇)

指導者教育……………(三〇)

總力發揮……………(三一)

2 幹部養成の必要……………(三一)

班生活……………(三一)

學年の幹部……………(三二)

指導の適應……………(三三)

幹部としての要素……………(三四)

3 指導の方法……………(三五)

幹部訓……………(三五)

宿泊訓練……………(三六)

4 幹部と兒童……………(三七)

杞憂された問題……………(三八)

確 信……………(三九)

四 指導の領域と機構……………(四〇)

1 指導の一元化……………(四〇)

教室内の指導と校外生活……………(四一)

學校行事……………(四二)

郷土行事……………(四三)

國家の要求と兒童生活……………(四三)

2 生活修練の確立……………(四三)

指導部の機構……………(四四)

指導機構……………(四四)

3 特 技 章……………(四六)

能力の自覺……………(四七)

將來への途……………(四七)

名 譽 章……………(四八)

五 學校生活の刷新……………(五〇)

1 一日の生活 ..... (五〇)

    二列行進 ..... (五〇) 各自の持場 ..... (五一) 全校一斉作業 ..... (五二)

    放課作業 ..... (五三)

2 一週の生活 ..... (五四)

    生活設計 ..... (五四) 週間行事 ..... (五五) 週間勤務 ..... (五五)

3 各部の活動 ..... (五七)

    役員告知板 ..... (五七) 役員部の發展 ..... (五七)

六 修道生活の確立 ..... (六一)

    1 朝の修養 ..... (六一)

        早天修養會 ..... (六一) 朝會 ..... (六一)

    2 日参・月参 ..... (六三)

        興亞奉公日 ..... (六三) 氏神日参 ..... (六四) 英靈への感謝 ..... (六四)

    3 心と仕事 ..... (六五)

        作業態度 ..... (六五) 黙働作業 ..... (六六) 便所掃除 ..... (六七)

七 宿泊訓練

1 一つの計畫 ..... (六九)

    目的 ..... (六九) 方法 ..... (七〇) 準備 ..... (七一)

    性別の問題 ..... (七二)

2 鍊成の効果 ..... (七三)

    児童の場合 ..... (七三) 教師の場合 ..... (七五)

3 夜と子供 ..... (七六)

    家 ..... (七六) さびしさ ..... (七六)

4 或日の記録 ..... (七七)

    計畫表 ..... (七七) 炊事 ..... (七九) 夜間訓練 ..... (八〇)

八 健康教育の實際 ..... (八一)

    1 生活の鍛錬化 ..... (八一)

        鍛錬第一 ..... (八一) 運動の集ひ ..... (八二) 學校體力検査 ..... (八三)

        體育觀の樹立 ..... (八四)

2 體育の集團化……………(八四)

    合同訓練……………(八五)

    誇と競技……………(八五)

3 體育の國防化……………(八六)

4 養護の問題……………(八八)

    兒童體力の認識……………(八八)

    衛生思想……………(八九)

    休    養……………(九〇)

九 行    軍……………(九二)

    1 旅行遠足の再検討……………(九三)

        過去の遠足……………(九三)

        新しい要求……………(九三)

    2 新 計 畫……………(九四)

        行軍の意義……………(九四)

        行軍の計畫性……………(九五)

        鍛鍊主義……………(九六)

    3 或日の行軍……………(九六)

        編成發表……………(九六)

        出    發……………(九七)

        傳令訓練……………(九八)

        地形訓練……………(九九)

        指標訓練……………(一〇〇)

        臨地指導……………(一〇一)

        自轉車班……………(一〇一)

        養護班……………(一〇二)

十 野 營 生 活

1 野營の意義……………(一〇四)

    綜合生活指導……………(一〇四)

    國土教育……………(一〇五)

    國防教育……………(一〇五)

    開拓訓練……………(一〇七)

    懐かしき生活……………(一〇八)

2 野營の實際……………(一〇八)

    野營地の選定……………(一〇八)

    計畫と準備……………(一一〇)

    村落形成……………(一一一)

    社會生活……………(一一三)

    鍊成生活……………(一一五)

    夜間の指導……………(一一七)

十一 非常訓練……………(一二八)

    1 銃後の義勇軍……………(一二八)

        青少年の力……………(一二八)

        新しい自覺……………(一二九)

        組織的體制……………(一二九)

    2 訓練の實際……………(一二〇)

        非常招集……………(一二〇)

        基礎的訓練……………(一二三)

        綜合訓練……………(一二三)

十二 集 團 作 業

I 據るべき態度……………(一二四)



勤勞青少年……………(二三) 集團の意義……………(二五) 土の教育……………(三六)

2 勤勞奉仕作業……………(三七)

農家奉仕……………(三七) 道路修築……………(三八) 運動場建設……………(三九)

3 農耕作業……………(四〇)

農園經營……………(四〇) 共同管理……………(四一) 生産部……………(四二)

4 作業の日……………(四三)

精神的意義……………(四三) 作業・訓練・奉仕……………(四三)

十三 田園實習……………(四五)

1 着手した動機……………(四五)

田園と教育……………(四五) 食糧増産問題……………(五六)

2 農學校との連絡……………(五七)

組織的指導……………(五七) 各方面の體驗……………(五八)

3 農家實習……………(五八)

實施計畫……………(五八) 實習の内容……………(五九) 生産と教育……………(六〇)

十四 工場實習……………(六一)

1 工業科の使命……………(六一)

學校の設備……………(六一) 教室の擴大……………(六二)

2 工場調査……………(六三)

工場調査……………(六三) 實習・見學・計畫……………(六四)

3 職場の教育……………(六四)

正しい職業觀……………(六五) 國家と工業……………(六六) 職場の體驗……………(六七)

十五 文化指導……………(六九)

1 科學生活の指導……………(六九)

生活の科學……………(六九) こども科學會……………(七〇) 模型製作の指導……………(七一)

2 生活の教養……………(七二)

讀書指導……………(七二) 音樂指導……………(七三) 映畫會……………(七四)

3 興亞教育……………(七五)

興亞科の特設……………(七五) 時局解説……………(七六)

4 揭示教育……………(一六〇)

  揭示場の經營……………(一六〇) 動く學習……………(一六一) 展覽會……………(一六二)

5 兒童の文化活動……………(一六三)

  學習設計……………(一六三) 學年週報發行……………(一六三)

十六 まどろ

  1 「まどろ」の目的……………(一六五)

    「まどろ」の意義……………(一六五) 「まどろ」の機會……………(一六六) 参加する子供……………(一六六)

  2 「まどろ」の手記……………(一六七)

    作業後の場合……………(一六七) 宿泊訓練の場合……………(一六八) 野營の場合……………(一六九)

十七 女兒の訓練……………(一七二)

  1 指導の領域……………(一七二)

    素朴・明朗・從順……………(一七二) 女子の態度……………(一七三) 修服作業……………(一七三)

    低學年輔導……………(一七四)

  2 家庭教育……………(一七五)

家庭連絡……………(一七五) 家庭への希望……………(一七六)

3 宿泊訓練中の分擔……………(一七七)

  持場の認識……………(一七七) 指導の方針……………(一七八) 豊かな心……………(一七八)

十八 社會に於ける兒童……………(一七九)

  1 時局即應の體制……………(一七九)

    町の組織化……………(一七八) 子供常會……………(一八〇) 校外組織の效果……………(一八一)

  2 奉仕事業……………(一八二)

    組織的指導……………(一八二) 手薄家族の手傳……………(一八三) 部落活動の一翼……………(一八四)

    卒業生の問題……………(一八五)

十九 吾等の信條……………(一八六)

# 學童隊訓練の構想と實際



新しい構想の必要

小學校から國民學校へ

轉染日本 皇軍が佛印に進駐してまだ日は浅い。

米、英、土國はこれに拮抗して、日本の資金凍結を宣した。

ルーズベルト米大統領とチャーチル英首相は大西洋の波濤の上に會談を遂げたと云ふ。

A B O D 對日包圍陣は、その強化に汲々たるものがある。こゝ幾旬日、全世界の注視は歐洲より轉じて東亞に向けられた。

私はこゝに東亞共榮圏の明らかな姿を見出す。

それは、今まで東亞の眞の姿を覆つてゐた舊い垢が、これ等の事實によつて續々と拂ひ除かれたが爲である。こゝに我々は瞬時の退嬰も、停滯も許されないのである。この嚴然たる事實に目を蔽つてゐる時ではない。そして、これ等のあらゆる敵性行爲は我々に對する壓迫でもなければ、威力でもない。新しきを生まんとする我々への刺戟であり、尊き試練である事を考へねばならない。

私は再びこの嚴しい事實を凝視する。そこに又、轉換し終へんとする日本の相を見出す。

東亞を覆つてゐた過去を對外の情勢が急速に拂ひ除いて行つたと同様に、眞の日本の姿に纏はつてゐた舊い残滓が、内なる動きによつて淨化され清算され様としてゐる。新しい經濟の機構が我々の常識とならうとしつゝあり、學問も、藝術も、自らの築いた塔から出て、生れ出た民族の姿にかへらうとしつゝある。國民の生活の隅々にまで新しい息吹が聞えはじめた。この轉換も、この動きも、それは不安でもなければ動搖でもない。永遠の歴史に輝き、しかも新しい生命を獲得した、たくましい日本を産み出さんとする胎動に外ならないのである。

**國民學校の誕生** 國民學校の誕生は教育界に於てみられる轉換日本の相である。

推移する世界の情勢は、又それ等を指導しなければならぬ日本の使命は、獨り教育にのみ停滯を許すはずがない。否むしろ教育は全てより一步先行して導かねばならない義務がある。教育が新しく生れかへらねばならぬ必然性はこゝにある。「新しい酒は常に新しい革袋に」とか。革新的な教育を試み様とするには先づ革新機構が必要である。制度や機構が舊態依然たるものであつては實をあげる事は難しい。轉換日本の胎動は早くからその改革を要望してゐた。この要望に應へて關係諸方面の攷々たる研究と國家の斷乎たる決斷が遂に國民學校なる名稱の下に全てに新しい教育の出發を宣したのである。

**眞使命の理解** だが、我々はこゝで誤つてはならない。法規が改まり、教科書が變り、校門の標札が新しくなつたから國民學校になつたのではない。決してこれで國民學校が誕生したのだとは云へないはずである。眞實の誕生は教育することそれ自體になければならないのである。國民學校の眞の使命を理解して、我々が行ずる所にはじめて誕生がみられるのである。こゝで

部分的な訂正や、便乗主義の偽裝はゆるさるべくもない。如何に改装し様と、如何に塗りかへ様と、十年前の飛行機が實戦に活躍し得ない事實は戰場があまりにも峻厳に物語る。

木の香も新しい門札を一しよに我々は心から新たにしなければならぬ。身によろつてゐた過去の殻から脱し去り國民學校に生命をふきこまねばならぬのである。

國民學校のもつ眞の使命は勿論、本旨に示された通り「皇國ノ道ニ則リテ普通教育ヲ施シ國民ノ基礎的鍊成ヲ爲ス」ことである。この使命を具體的な事實とし、生命あるものにするには、我々が我々の行動を通して理解し、その理解の上に立つて皇國民の鍊成をなす事以外にはあり得ない。つまり我々が新しい希望に燃え、皇國に對する熱情を滾らせつゝ、子供たちと一塊となつて、邁進する事以外にはあり得ないのである。

新しい構想。これ等の事は、云ひかへれば國家永遠の方途を自覺し、熱情をもつてそれに身を投じ得る國民をつくる事であり、又高度國防國家建設への力をつくる事である。

轉換日本の相を觀じ、我々へ與へられた眞使命を考へる時、我々は新なる構想を胸に描く。

我々は教育理論家ではなくして、實際家である。だから國民學校のもつ眞使命を具現してゆく爲に、新なる實踐構想をもたねばならない。それは建築家が新しい建築をし様とする時、精密な設計圖をもつと同じ事である。彼はその建築のもつ生命と、そこにすむ人々の生活とを根柢に、構への一つ一つを設計してゆくであらう。しかもその圖の上には、そこに住む人々の上に明るい希望と喜びが齎されることを忘れない。我等は一大設計家となつて、否、國家百年の設計者として學級經營の上にも、教科指導の上にも、あらゆる生活訓練の上にも、先づなされねばならない新しい發足の爲の構想をもたねばならない。過去の情性によつて流れてゐたのであれば、それは取かへしのつかぬ大きな誤謬を犯して行く。

新しい構想の下に、國民學校の眞使命ははじめて實踐にうつされ、息吹き始めるのである。

## 2 青少年團との一體化

行動日本 戦争は我々に行動の崇高さを教へた。そして、行動がすべてを解決する鍵であることを學ばしめた。東に日本が、西にドイツが、宣傳や謀略の敵性行爲を堂々たる行動をもつて

粉碎する姿を目の當り見るのである。便々と、議論に貴重な時間を空費した時代は完全にすぎさつたのである。

學校報國隊の結成や、無醫村診療奉仕に學園の活動を見るのも行動日本の一つの姿である。眞理の追究が象牙の塔から解放され、學問が教室の獨占より逸脱したのである。それ等は眞の生命を獲得するために行動の學問へ移つたのである。これは日本の前途にとつて、極めて重要な契機であり、偉大な成功である。而しこれは單なる一例にすぎない。「皇道日本」といふ公案を、如何に爽やかな辯舌をもつて答へ様と、それは野狐禪の謗りを免がれないのは明瞭であらう。この公案は我々が行動を以て答へねばならないのである。又行動を持つより他に道はない。又、さうする事が、我々の祖先がなして來た貴い遺風を繼承することであるのだ。

**新青少年團の誕生** 行動日本の推進力の鍊成は青少年の時代にその根基に培はねば強力なものが得られ難い。又反對に國家の實踐の力は青少年の生み出す若き力によらねばならないのである。

この青少年の力をより強く發揮させ、より強く鍊成して行くためにも新しい構想による組織が必要なのである。こゝに大日本青少年團が自治的團體の域を脱却して、國家的な團體として統一され、組織されるやうになつたのである。つまり新青少年團は行動日本の原動力たらんがために誕生したものと云へるのである。

尙、今まで諸種の團體に分れてゐた青少年團が、統一された組織をもつた事には青少年が一つの集團となつてその力を發揮し、その力が何時でも國家の要請に従つて發動されるやうにいふ事であらう。

いづれにもせよ、新青少年團は行動日本が生んだ必然の子であり、將來を律する強い力である。

**青少年指導の新様相** ここで問題になるのは學校教育との關係である。過去に於てはこの二つのものは無關係に存在する事も出來た。しかし之では時局下の今日に於いては不充分であるといはなければならぬ。團則も明かに學校教育との不離一體性を示してゐる。しかし實際運営

のはこびになると、二者の輕重が問はれたり、或は事實上の矛盾が生じたりすることが少くない。これは二つのものを比較してその何れかを取らうとすることから来る。學校教育も、青少年團の教育もその根源は青少年の指導・鍊成にあるはずである。この青少年指導が體系的、基礎的な姿をもつたのが學校教育であり、主として行動的な姿をとつたのが青少年團の教育であるとも云へるのであつて、問題は二者を對立したものではないのである。要は考へ方と、指導者に行動的實踐力とその熱意に缺けてゐたことによるのである。

新しい世紀を背負ふ皇國青少年を指導する爲には、二者が各自その力を發揮しながら二つの車の様に軸を共にして廻轉するのぞなければならぬのである。

### 3 皇民の鍊成

知識人から行動人 「室が穢いね。どんなにしたら綺麗になるだらう。」もし子供に向かつてこんな問ひを出した時、一人の子供は「お掃除をしたらいふんです。」といひ、もう一人の子供は箒をもつて掃き出したとしたら、我々はどちらを取ればよいのだらう。あまりにもはつきりとし

た二つの事實にさへ、今まで我々は兎角戸迷ひをしたのではなからうか。時としては、「お掃除を……」と答へた子の方が、賢明にみえたりしたのではなかつたか。事實、知識人たる事が我がの望みであつた時代がある。そしてこの知識人に指導されてゐた時代が遠くない時にあつたのだ。蒼白い文化が輝やかしい寶石の様に珍重がられた時代がそれである。しかし之等は戦ひによつて惜しみなく粉碎された。吾々は實戦を第一として鍊磨された皇軍の偉力が文化のおくれた支那の奥地で遺憾なく發揮された尊い行動を目的の當り見、體驗したからである。

理論の時代ではないと云はれる。單なる知識の存在せぬ時代であるとも云はれる。事實、行動によつて裏付けられた知識でなければ無價値である事は我々が教壇に立つてつぶさに體驗する所である。日本は元來、行動の國であつた。三千年この方、ひと時として撓んだことなく、あらゆる外來の文化を攝取しては消化し發展して來てゐる。この行動日本の血を受けて育てられて來たのが我等の祖先であり我々であるのだ。

皇民は行動人である。

國民學校の示す「皇民の鍊成」とは、知識人から行動人へ、日本人本來の姿への歸依の途を示

すものでもある。

世界觀の確立 ドイツを今日あらしめたものは、ヒットラーの絶叫と間髪を入れず勃る全國民の行動であつたとも云へる。更にその根柢は、全國民のいづれにも行涉つた世界觀の教育によるものであらう。行動が單純なる行動である時、それは妄動と等しい。行動を基礎づける所の世界觀の確立がなくてはならない。

皇國の道は、日本精神の自覺された姿であるとも云はれる。近代世界の國家を建設してゆく爲には、どうしても國民一人一人が、確實な世界觀をもたねばならない。國民としての眞の自覺も、行動も、そこから生じて來るものなのである。殊に青少年層の者が、かゝる訓練をうけ自覺ある行動をなす事は、日本の將來にとつて極めて重要な事である。明治維新もかゝる過程を経てなされたのである。

皇民鍊成は行動し得る人間を目標とすると同時に、かゝる自覺の域をねらはねばならない。

#### 4 機構の生命

日本形態による生活 皇民の鍊成をなすには、新しい構想の下に生れた新しい組織機構を持たねばならない事は前にも述べた。しかし我々はこの點をあまりにも閑却してゐなかつたらうか。我々の生活には機構が存在し、しかも存在する事が極めて重要であつて、機構のもつ様式が無意識の中にその構成する成員の活動を束縛し性格づけてゐることを知らなければならぬ。

我々の家には家風といふものがある。その家風を重んじる事は非常なものであつた。家風に従ひ得るものが、その家の一員であり得る。もし従ふ事が出来なければその家より除外される。人々はその家風に従ひ、生活する事によつてのみその家の一員である資格を得たのである。言ひ換へれば、家風は歴史的に形成された家の機構であるとも云へ、我々の行動の基準は常に祖先の遺風であつた。この事を見逃す事は出来ない。つまり日本人らしい生活とは、歴史的に自覺された機構をもち、それにあくまで隨順するといふあり方でなければならぬのである。國體の本義にも忠を悟して、「天皇を中心とし奉り、天皇に絶對隨順する道である。」と申されて



ある。これは我等の祖先及び我等が、その生命と活動の源を常に 天皇に仰ぎ奉つて來た歴史的生命の實相に外ならないのである。

組織化された産業人 皇民の資格は歴史的な生活に隨順し得る人間であると同時に、高度國防國家建設の體制に即應し得る人間たる事をも含んでゐる。これは取も直さず組織化された産業人たる事を指すのである。

組織が生命を獲得した、これは現在の眞理である、教育も組織に對して眼を開かねばならない。——我々は具體的な範例をドイツにみる。——

個々はそれ／＼の機能をもち合はす。その機能は種々雑多であり、原始のまゝでは働く方向もまち／＼である。これでは機能は充分の力を發揮し得ない。かへつて互に相殺し合ふ事さへある。これに一定の方向を與へねばならない。その方向は勿論國家の要請によるものである。一定の方向を與へ、その持場に於て個々の機能を十分に發揮せしめるべき體制が機構であり、組織である。

教育の一つの任務は、この機能を鍊磨育成する事にもある。又各々の人間は組織的な生活をなす事によつて國家の要請する組織された産業人としての機能の鍊成をうけ、同時に國家の意圖する方向を自覺するやうになるのである。

こゝに教育に於ける機構の生命が発見されるのである。

## 二 指導の機構と構想

### 1 小學校の兒童

過去の優等生 子供たちは何時、どんな時でも自分のありつたけの力を出して頑張つてゐるものなのである。しかし、これに對して大人がまちがつた判断を下したり、誤つた評價をする事が往々にしてある。小學校時代の優等生なんかも、その一つではないのだろうか。勿論過去の優等生には、それとしての價値はあつた。しかしたゞ知的な方面のみを考へてゐた事は事實である。教室での生活の、その又一部の範圍で彼等が如何に活躍し様と、それはこの子供の一小部分にすぎない。それを認める事は當然であるが、過大視する事は危険である。

しかし、事實は、この危険を危険と考へなかつた爲に、子供たちも、親たちも、讀み、書き算盤の上達にのみ汲々として、實行力のない、弱々しい優等生が濫造され、成績優秀の札をつけて社會に送り出され、それが世の中の中堅と云はれるやうになつたのである。

運動場の大將となり得ない一兵卒の優等生、その蒼白い姿を、もう一度検討し直さねばならないのである。

學校と家庭と社會 これ等の傾向に最も不安を感じたのは社會であり、そして最も早く矛盾を感じたのは學校であり、一寸も氣づかずに大きな被害をうけてゐたのは家庭である。しかしこの三つが互にばら／＼であつた爲に、少しもそれを修正し様とはしなかつたのである。小學校時代が犯してゐた誤りの一つはこの三者が緊密な連絡をその根柢に於て缺いてゐた事であると思ふ。しかし父兄會もあり、諸種の社會教育の施設もあり、それは多く學校を中心に動いてゐた筈であるのに、この缺點があへて存したといふことは、教育者の識見の足らざる所か、又實踐力の缺けたるためか、三考を要してゐる。兒童は一つの身體を三つに切離されて考へられあつかはれてゐたのは事實である。學校での子供、家庭での子供、町での子供、この三役をやりつゞけて來たのが小學校時代の兒童の姿である。先生やお巡りさんのお叱りなら聞くが親の命には従はないのが兒童の常識であり、又一面、家では役に立つと云はれる子供が學校では一

向元氣がなかつたりする。教師が一心に教へた事が家庭で破壊され、社會の實狀がそれとは正反對であつたりする事は再三ならずである。こんな所に小學校教育の存外に大きな障礙があつたのである。

事實、兒童たちが、こんなに別々に教育され、區々に活動してゐたのでは、正しい次代の皇國民をつくりあげる事は不可能である。この明らかな矛盾を修正しなくてはならない。それには學校が先づ城廓に立籠る事を止めて、家庭や社會と一體となつて教育してゆく體制をとらねばならぬ。

活動する姿 もう一度、こゝで兒童のありのままの姿をみつめたい。最近の彼等の活動はめまぐるしいまでに活潑になつて來てゐた。勤勞奉仕、學校の作業、農耕、町内の奉仕、通學分團の集團行事等々、多彩と云へばきはめて多彩なその日をおくつてゐるのであつた。しかしそれ等には、何等指導する態度も與へられなければ、統一もなかつた。勿論、組織ある行動などは望み得なかつたのである。そこに混亂がおこり、兒童が負擔にたへかねて困憊する姿が見受け

られた。

何事かなさねば、と云ふ氣持が無秩序に働いたが爲であらうが、これは無爲を修正してかへつてそれに劣らぬ缺陷を招く結果になつたのである。このまゝではいけない。何とかして防がねばならない。

## 2 國民學校の兒童

ヨイコドモ 小學校の兒童はそのまま國民學校の兒童となつた。こゝで彼等が過去にもつてゐた全てを反省して、伸ばすべきは伸ばし、改むべきは改めねばならない。私達は國民學校の實踐に先行して、國民學校の兒童のあるべき姿を考へてみたい。

よい子供は興國の子でなければならぬ。精神の方面からも、實際の生活の様子から云つても、次代の國民としての活動の出来る子供でなければならぬ。私はその第一に命に従ひ得る子供、と云ふことをあげたい。日本人の最も尊い素質は隨順といふことであり、これが日本人の全てを貫く態度であると考へるからである。それと共に行ひ得る子供でなければいけない。従

ふと云ふことは一つの事を正しく理解し、それを喜んで實行する事であると思ふ。つまり、やらねばならないと考へたことは氣慨、氣魄をもつてやる事の出来る人間でなければならぬ。そしてこれ等の根柢に皇國民としての自覺をもつてゐなければならぬ。明るさと誇りとをもつて、皇國の子である事を自覺しながら生きてゆく子供——それを「ヨイコドモ」の姿であるとして私は考へる。

**戦争と子供** 我々は戦争に教へられる事が非常に多い。子供も矢張、戦争によつて教へられ、鍛へられてゐる。むしろ我々よりもつと純粹に戦争の教ふるものを受取つてゐるかもしれない。事實、子供たちは戦ひによつてたくましさを増した。「ヨイコドモ」としての資格をより多くもつた様に思ふ。

事變以來、子供たちはあらゆる粉飾を投棄てねばならなかつた。衣服一つにしても彼等は飾りつけてゐるものを擲つて生活に必須なものだけを殘した。粉飾を棄てた彼等は温室から露地に出された作物の様に、峻烈な試鍊をうけた。心も身體もたくましいものでなければならぬ

なつた。こゝで彼等は働く事が大切である事を知つたばかりでなく、我々は耐へなければならぬ、と云ふ事を知つたのである。

私は運動場に渦巻く黒い身體の子供等を見て、汗しながら鍬をふる子供等を見て、あまりの變りかたに目を見張るのである。彼等は日本にとつて極めて重要であるたくましさを得てゐるのである。

その他に、頭だけの學問が、全能を傾けての學問でなければならぬ事も知つたのである。しかしもつと大切な事は、彼等が今直接、國民として働いてゐるのだ、と云ふ考へをつくりあげてくれた事である。今までは子供等は次の時代への準備であり、今は國家活動の局外者である事を考へてゐたかもしれない。しかし今は彼等の生活の全てに、ひし／＼と戦時國家の體制が浸み込んで行つてゐる。切符制にしる、防空訓練にしる、奉仕作業にしる、あらゆるものはもう兒童生活の必然となつてゐるのである。そして、それ等が兒童を興國の子として鍛へつゝあるのである。私達はこの事實を見逃してはならぬ。

**新實踐構想** 私達五人の指導者は自分自身のやり方について、大きな訂正をしなければならぬと考へるに至つた。否むしろ全面的に再建設し様と決心した。

第一に子供等との生活——主として學級での——をもつと組織化し、はつきりした機構をもたねばならないと考へたのである。學校と社會との實情に照して斯うする事が全ての矛盾を解消し、障害を取り除いてくれるものと思つたからである。そのみか左様にする事が彼等をして行動人たらしめる事になり、實際に即した學習が出来る事にもなるのである。これ等の組織が學級を中心に擴大されて、あらゆる兒童の活動の領域に喰込んでゆく事が願はれた。第二にはその形が國家の事態に即應してゆく形態でなければならぬと考へた。戦争が子供を變貌させた事はもう明かな事實である。教育がこの事に目を蔽ふか、さもなくとも消極的な影響をうけてゐたのでは眞に生きてゐるとは云へない。積極的にこの時代の子供をつくつてゆく事を考へねばならないのは勿論、教育の形態がそれに相應しい形をとらねばならない。

この二つが私達の出發の足がかりとなり、その經營に自信を與へた。

### 3 私の學級經營

**子供への話** 私達はこの發足を私達だけのものにしたくなかつた。子供も一しよに反省し、自覺して同行する事が必要であり、有効であると考へた。それで、或機會をつかまへてこんな話をしたのである。

「青少年の力が國家にとつてどれほど大切であるかは、今まで何回も君たちにお話した。

君たちの心の中には『海ゆかば』の歌の様な氣持は一ばいだらうと思ふ。君たちばかりではない、日本中の人々は皆、この氣持で生活してゐるのだ。しかし銃後の私たちがことごとく何時も前線の勇士に恥ぢない、そしてその戦ひを支へてゐる様な行ひをしてゐるだらうか。よく考へてみると物足りないものがある様に思ふ。

又、君たちはよく學習もし、その他の仕事もやつてゐる。しかし戦争をしてゐる國の子供たちとして、もうこれで良いのだ。と云ふ様な感じがするだらうか。これも少し物足りない。

私たちは皆して、もう一度、戦争をやりとげる、つまり東亞共榮圈確立といふ大仕事をや

つてゐる日本の子供たちとして相應しい様な學級を考へてみようではないか。私も考へる。しかし君たちも考へる。よい考へが出来たら早速實行して行かうではないか。」

**子供達の會合** 私はじつと子供たちの反響をまつた。子供たちがどんな考へをもつてゐるか、どの位自覺してゐるか、それも知りたい氣持であつた。

二日して代表者が放課後集會さしてくれと願ひ出た。先生も出てくれと云ふ。私はそれを許して出席する事にした。集つた者は學級の小單位に分けられた組長たちであつた。私はその日は單なる傍聴者である事にし、お互ひの意見を打割つて話し合はす事にした。

第一の意見は學級の隊組織といふ事であつた。學級を小單位にわけ、それを一つの隊としてまとめて行く。そして作業、掃除、學習等出来るだけこの小單位がまとまつてやつてゆく云ふのである。私もこれには賛成した。單位の名稱も、班、分團、集團、隣組等々多く提案されたが、試みとして隣組の名稱を第一候補にあげることにし、議案は續々と出て討議されてゆく。中には突飛なものもあり、複雑で實行出来さうにないものもある。しかしそれ等は子供たち

にとつては眞剣な意見なのだ。何しろ建設してゆく意氣とよろこびとが皆の顔に溢れてゐる。私のやらねばならぬ事と考へてゐた事が、彼等の求めてゐた事なのである。私は安心もし、喜びも持つた。

私は最後に幹部としてこの會合に参加した子供たちに團結の中心である様に努力してほしいと希望して最初の集會を終つた。

**級訓三ヶ條** 私の氣持で子供たちを動かさうと考へたのが、かへつて子供等の純粹な熱情に動かされてしまつた。私は早速に學級再建設の仕事に取かゝらねばならなかつた。

第一に私の學級經營の根本精神を級訓として子供たちに示すことにした。子供等が自分たちの手で、よい學級をつくりあげる時のはつきりした道標としたかつたのである。

隨順 力行 團結

これが私の立てた道標の三つである。私は自分の教育信念に照して、この三つが皇民鍊成の實踐の眼目と確信してゐたからである。以後、私は折にふれ、事に當り、根よくこの三つの精

神を繰返し繰返し體得させようとした。

**學級の組織化** 學級を組織的にする第一は子供等の意見によつて隣組を五つ作ることにより取りかゝつた。通學とか下校後の生活とかを考へて、住所の近いものによつて一つの隣組をつくることにした。隣組は一つの生活單位として彼等自身で處理出来る問題を取定める常會を開く事を許した。これに附隨してこの五つの單位が對立しない様に、又統一する事の可能な様に隣組の組長と級長(これは組長を兼務してゐなかつた。)とで幹部會を組織し、これが企畫部であり實行の指導者でもあつた。

これでは一人一人の活動が積極的になり、しかも責任ある持場をもつてやるわけにはゆかない。それで私は全兒童が何かの仕事をもつ様に兒童役員の決定をした。一人一人が自分の仕事をもち得る事は楽しい事である。自分の身に責任がかゝつてゐるといふ事は随分勵みになるものである。楽しく奉公する、分に應じて力を出し切る。それが尊い事である事を體驗させたかつたのである。

仕事は風紀部、學習設計部、運動部、作業部、經理部の五つに大別した。そしてその中に小さな容易な仕事をあてはめて行つた。一つ一つに子供たちの能力と特徴を考へながら丹念に配當して行つた。どんな子供でもやり得る様に。そしてその中から自分に力の持合せてゐる事を自覺出来る様にと考へた。

**心の故郷としての學級** 私は徹底して規律ある生活の完成を目標とした。殊に團體的行動と規律とが、これからの全ての生活に切離せぬ重要なものである事を教へようとした。責任ある行動も各々の重要な修道の目標とした。無責任、無秩序は我が學級の恥辱である事を忘れさせなかつた。しかし私はこれだけで大國民としての皇民をつくる事は出来ないと思へてゐる、そして現在の人々があまり狭量である事に將來の危惧を感じてゐる。それで嚴格な躰の中に心のゆとりをつくらうと考へた。人にはなくてはならない故郷をもとめたのである。

學校を公と考へた時、學級は私的な色彩をもつて來るとも思へる。そこで私は學級を心の故郷として子供に感じさせる様に努力した。學級は心の故郷である。つまり心の憩ひの場所であ

り、心の開放の機會でもあるのだ。その中心に常に教師が居り、そこで師弟が一つになり得て、心の淨化がなされれば満足なのである。食後の時間、放課後の一刻、作業の後、更に學級の全生活にこの氣持が浸込む様に努力して行つた。子供たちは學級を心安い生活場と考へる様になつて來た。これは後述の「まどろ」に成長して行つた。

#### 4 學級經營から學年經營へ

**新展開** 些かな營みではあつたが、生長してゆく子供らを見ながら私の計畫は無駄でなかつたと考へる様になつた。しかしまだ施すべき事は多いのである。

國民學校としての新學期がはじまつた。私の試みが少しでも國民學校の途にそつてゐるなら、もつと擴大してやらなければならないと考へた。そして又、學級といふ一つの塊にとりついてゐるのでなく、學年、學校が一體となつて一つの機構をもつ事が教育上どれだけ大きな力を齎らすかと考へた。

學年が一つの機構をもつて經營に進む。相談はまとも実行にうつる事になつた。

私はこの新なる展開の前に過去の經驗を生かすと共に、過去のこだはりを捨てることにした。

**結成式** 學年が一つにまとまるとなると、人数が増加し、兩性が入混る。教師と兒童の關係も一つの學級の様に始から行かぬ事は當然である。だから第一に組織をより強化しなければならぬと考へた。それには全體の團結心をつくらねばならない。一つのものになつたといふ意識的な契機がなければ、多數が期せずして一致する事は難しい。形式的にも明瞭なものでなければならぬ。

そこで學年隊の結成式を行つた。先頭に皇國少年の推進員たらんと志を象徴する八咫鳥のマークを縁に染抜いた隊旗を押立て、運動場に整列した。「青少年學徒ニ賜ハリタル勅語」を捧讀して、分列式を行つた。

子供たちは緊張と希望に頬を輝かしてゐた。

**學年の組織化** 結成式は豫期以上の効果があつた。これを第一步に學年の組織化に着手した。



多數であるものが生活を共にするとき、そこに自分の身をおく小さな單位のある事は運営や指揮の上に有効な場合が多いからである。生活單位の決定といふ意味で班制度による生活の確立を目ざした。

班は彼等が常に直接的に感じてゐる生活の單位である。學校での家族である。そしてこの班がまとまり、發展してもう一つ上の單位をつくるのである。先づ各學級で五ヶ班を組織した。この基準は全校區を通學兒童の數が大體均等になる様に住所別にしたのである。かうして別けられた班を今度は學年で一まとめにした。即ちA學級の第一班とB・C學級の第一班はこれを通じて第一班としたのである。こゝで性別はなくなり、もし學年的に上下がある場合もそれを統合することを立前とした。勿論こゝでは學級の別はなくなる。一見こんな考へ方は複雑の様だが、子供たちはこんな状態の組織下にあるのが本當である。つまり學校の一員である兒童はそのまま少年團員でもあり、地方部落の一員でもある。しかるにこれ等の内の何處かの一に定めてしまふ事は子供を抽象的な存在に導き、段々具體的な人間生活から離れさして行くのである。

子供たちはこの班を中心に活動し出した。班の中に緊密な協同精神が流れ出した。私は常に班長の統率のしかたと、班員の一人一人が責任をもつて働いてゐるか、そして相互の間に心からなる戰友的行動が現れてゐるかに注意した。學習に訓練に、運動や放課後の全ての生活に、班が一つの強い團體となつて來た。更にそれが私生活——病人の看護や家事の手傳まで——にまで及んでゆくのを楽しくみつめつゞけた。

この生活單位を一つにまとめる組織の上に、それが活動してゆくために必要な機構もつくりあげて行つた。それ等は後の項述べてゆくが、教師のあつまりとしての指導部、班長等の幹部、兒童役員部、勤務の機構、指導の機構等がそれである。

### 三 幹部の指導

#### 1 幹部教育の時代的意義

**指導者教育** 最近方々で幹部のために講習が多く開かれてゐる。これは一つの時代的要求の現れであるとする事が出来る。國民の生活が組織化され、集團化され、しかも複雑になつてゆくのであるから、どうしても今までの様に個人が個人の意見で動いて居たのではない。それを統一し、秩序づける指導者が必要になつてくるのである。今までもかゝる形をとる指導者はあつた。しかしこれ等指導者が一つの共通な世界觀をもち、行動への意志をもつことまでには到らなかつた。今後の世の中にはこの種の教育が當然必要となつてくると考へられる。生活の軸となり、しかも自からの集團をより大きな集團の意志を奉じて、動かし、秩序づけ、全てを皇國の道に歸一せしむる行動の力ともなり、理念ともなるべきものを確保してゐる指導者を幹部教育がつくつてゆかねばならないのである。

**總力發揮** 一面又優秀な幹部をつくりあげてゆくと云ふ事は、總力發揮の爲にも必要な事なのである。總力發揮とは各人が同じ様に力を出す事ではない。各々の能力に應じて自分の持場持場で力を出し切ることである。けれども之はなか／＼難しい事である。更にその總和がまとまつたものになつてゐるといふ事はより以上難しい。しかし時局はこの困難な總力發揮を絶対に必要としてゐるのである。私達はそのためにまとめあげる能力も秩序づける力も教育によつて特定のものに附與しやうとするのである。これが幹部教育の一つの精神である。ドイツが今の強大さをもつに到つたのはこの指導者の教育、つまり幹部訓練が計畫的であり、徹底したからである事を私達は改めて見なほさなければならぬと思つてゐる。

#### 2 幹部養成の必要

**班生活** 私たちもこの幹部の養成の必要にさし迫られた。もとから經營の根柢に班生活を重視し、子供たちの眞の生活をこの班の生活のうちに鍊成してゆく事を考へた。この班が一つの家族を形成してゆく時、その根幹になる人物がなくてはならない。そして、これ等の生活を伸展

し指導してゆく爲にはどうしてもその根幹になる人物にその資格と能力を附與する事が大切である。教師が班員に直接全ての場合にあたつてゐたのでは班を形成した意味が半減してしまふ。更に積極的に「青年は青年によつてのみ指導される。」とか云はれる事柄に大きな關心をもたねばならなかつた。年配の近いものが互に研磨しあふ事は絶対に必要なのである。その意味からしても統率力のある、しかも指導力をもつた人材を養成する事が考へられるのである。

亦、班生活をなさしめると、兎もすれば班と班とが對立してお互を理解し、協力し合ふといふ事が忘れられる事がある。これではいけない。これを防止するにはやはりその班を統一してゆく幹部が全體の進まねばならぬ道をよく知らなければならぬ。それには唯班長を任命し放置しておいたのではない。幹部が幹部としての指導をうけ、幹部としての自覺をもたさなければならぬ。

私たちは實行の最初に幹部の指導をやる事に力を盡す事にした。

**学校の幹部** 私たちの子供は、私たちの班員であると共に学校の一員であるのだ。殊に五年以

上の彼等は學校生活の重要な役割をもつてゐる事が多い。だから私たちの子供は學校の幹部だとも云ひ得る。彼等の中の一部の者は幹部としての資格をもつ事になる。この子供たちにまつはる仕事の色々は、今までは極めて二次的に取扱はれてゐた。私たちがさきに、さう考へる事の誤りである事を指摘しておいた様に、學校の全生活を通して彼等を教育してゆかうとするのならば、もつと眞剣にこれについて考へねばならない。よき子供たちの中の指導者をつくりあげる事が第一の仕事でなければならない。

私たちは幹部の指導をなす時、指導される幹部が學校の幹部であることを忘れず、峻嚴と敬愛をもつてした。

**指導の適應** 第三の必要とした理由は子供たちの能力の差といふ事である。現在ではこの能力の差といふ事は兎もすれば忘れられ勝の事になつてゐる。しかし恐らくどんな方法をもつても能力の地均しは出来る様に思はれない。統制主義と云ふ事も何も同じ人間を要求してゐるのではない。むしろ能力の差に應じて自分の力を出し切る所にその目的があるのではないのか

とさへ思はれる。

子供たちにしても劃一的な指導をうける事は面白くないであらう。全てのものに幹部としての仕事を強ひる事は不可能である。しかも又、幹部としてやり得るものを棄て、おく事もいけない事である。私たちは子供の能力を發見し、その力に應じて幹部の指導をなすべきことを考へたのである。

**幹部としての要素** それではどんな能力をもつものを幹部として取上げたらいのであらうか。私は先づ幹部選擇の要素として三つを考へた。第一は指導能力の問題である。幹部は古い品行方正の形であるだけでは不充分である。他のものを指導する力をもつてゐるものでなければならぬ。勿論知力のあるものでなければ指導は出来ない。研究心なども必要である。しかも最も大切なのは、捨石になつてやる、といふ氣持があるといふことである。第二はそれに関聯して體力の問題である。多數を率ゐ、そして自から行つてゆくには相當の體力が必要である。この事は等閑視され易い。我々は先づ過去の成績のよい子供を取り易いものであるけれど



も、實際幹部として體力のないものは充分な成績をあげ得ないのである。第三は教養の問題である。彼等の強靱な行動の裡に矢張教養の香がひそんでゐなければ班員はその指導に服し得ないのが事實である。

幹部はこの三つの要素をもちあはせてゐるか、或は鍊成した結果、それらの能力が表はれてくるかのどちらかの場合、之を選ぶのである。そしてそれ等の能力が充分の力を發揮し得る様に特殊な指導をなしてゆくのである。

### 3 指導の方法

**幹部訓** 私たちが幹部の指導をする時に常に心がけてゐた事は、彼等の自覺に訴へるといふ事であつた。それと共に彼等が自分の地位に乘じ驕慢な態度を取らない様にと願つてゐた。この二つのどれが缺けても、全體の中軸として活動する事は出来ない。私たちはあらゆる場合に彼等が自覺して、自信のある行動をする様に導いて行つた。その爲には他より一層厳格な訓練も課し、教養も與へる様にした、はじめは彼等はその責任の重さに負け様としたが、やがて誇を

もつ様になつた。そこで今度は謙虚な態度の尊さを知らしめ様とした。私達の理想は葉隠武士がもつた心の再現であつた。

私たちは、この様な指導上の氣持を端的に表明する言葉がほしいと思つた。研究の結果、戰陣訓の本訓二、その五「率先躬行」を幹部訓にすることに決した。用ひられてゐる語句が難解かとも思つたが、その裡に流れる熱意の滾りがうれしかつたのである。そして簡潔で、しかも高らかな調子が私たちのもつものと一ばんびつたり來ると思つたからである。

幹部の集りにはいつも彼等は之を高誦してその實踐を誓つてゐる。

**宿泊訓練** 幹部指導の方法として私たちは徹底して宿泊訓練を行ふことにした。第一學期間に五回、夏期鍛錬期間に二回、延日數にして二十日許りに涉つた。校内に於けるものや、野外に於けるものも取まぜて行つたのである。宿泊訓練については一般の場合にも重視して行つてゐるのであるから後に詳述するが、幹部指導といふ點から二三あげてみよう。

全體の宿泊は班別に行ふ計畫であつたので、その實際上の中心となる幹部がその生活に早く

馴れておく必要もあつたので、一般に先立つて三回、幹部のみの宿泊訓練をやつた。これはただ班員を指導する必要からだけではなく、早く指導者——私たちは指導にあたる教師をこんなによんでゐる——の氣持と一つにならさねばならないと考へたからである。それには起居を共にし、同じ食物を共に食べる事が最も有効なのである。彼等の生活は全て指導者の魂とふれ合ひながら進んでゆくのである。特殊な環境が出来るので、一種特別な氣持が彼等を鞭うつて行くのである。

一日を共にするのであるから、指導する機會が極めて多い。指揮法もゆつくり指導出来る。

幹部として必要な時局への認識も地圖を圍んで進められる。灯の下では書物の輪讀會や、座談會で教養の鍊成が行はれる。

幹部は指導者の氣持とびつたり一致し得るし、指導者もこの機會に幹部のもつてゐる全ての性格をよりよく知り得るのである。

#### 4 幹部と兒童

**杞憂された問題** 幹部は宿泊訓練をはじめ、あらゆる機会をとらへて行はれる指導にぐんぐんと進歩して行つた。しかしこゝで幹部とその他の児童との間が私たちの考慮を要する問題であると氣がついた。幹部は勿論、指導者の意を體して捨石的に行ひ、謙虚に勤めた。之は私たちにはよくうなづかれるのであるが、相手が子供であるだけに、幹部を指導者の股肱の寵兒と嫉視しないかといふ杞憂であつた。幹部と云へども同級生である。級友間の意向は考慮したにしろ選挙といふ様な方法は用ひなかつた。どうしても幹部は指導者と接する機会も多く、宿泊訓練なども回数が多い。あらゆる誤解が生じ二者の間に溝が出来たのでは私たちの意圖も努力も水泡に歸してしまふ。そこで準幹部なるものを交代的につくつて、全児童に参加させ、共に指導し様かといふ案も出た。しかしこれにのみよる事は私たちの方針に合致しない。幹部指導はそれ自身大きな價值をもつてゐたはずである。私たちはこんな妥協的な方法は出来るだけさけた。むしろ積極的に幹部の指導を徹底的に行ひ、早く幹部が幹部らしい態度をとらしめる様にした。全體の児童にもその點が理解出来る様に心がけた。

幹部は班の責任を委任された關係上、班員には涙ぐましいまでに身をうちこんで指導もし、

世話もした。そして全體のものに擊墜される様な行動をとることは凡そ彼等自身の誇がゆるさなかつた。

子供たちは純眞である。事實は事實としてそのままうけとつてくれる。幹部の行動の前には子供たちは、誤解も疑惑もはさまなかつた。

**確信** 杞憂した問題は、大人の世界の問題であつた。鍊成された幹部の態度と行動は、日が経つにつれて班員の敬愛と信頼の的となり、班の生活は幹部を中心に戰友的な氣持で結ばれ、活動範圍も廣くなつた。

或兒童の班生活の感想文の中に、班長の行爲への禮讃と信頼とが綴られてゐるのさへ發見した。私たちは確信をもつて幹部指導をなしてゆく事が出来る様になつた。

そしてこれを中心に次の仕事を展開してゆくべく歩を進め得たのである。

## 四 指導の領域と機構

### 1 指導の一元化

教室内の指導と校外生活 教育が教科にとちこもり、教室から一步も出ず、この教室の裝飾的な環境が教育に於ける唯一つの道場となつた。そして校外指導はこれとは無關係に添物として發達した。過去の犯した大きな誤謬はこゝにあつたのである。これでは生きた教育は望むべくもない。皇民鍊成も砂上の樓閣に等しいであらう。國民學校の「統合」と云ふのは、この點を根本的に是正せんとする所のものである。事實、國民學校の教則にはそれを出来るだけ教室から天地乾坤の間にかへさうとしてゐるのがみうけられる。

私たちは指導の機構を決定する時に、教室の内外、校の内外、教科の内外がきはめて圓滑に一元化される様になければならぬ。さうする事によつて種々の學習上の設備の不足が補へる事が多いし、又子供たちにしても、あらゆる時が我々の修養する時であり、どんな場所にあつ

ても一貫されたものを考へる様になる。しかも多元的に考へられて指導されてゐた時の様な多い負擔も感じなくなるし、かゝる機構を決定する事によつて時間的に大いに合理的になつた。國民學校になつて忙がしくなつたといふ聲をよく聞くが、それはこの事に無關心であるが故であらう。尙教室内の教育と校外生活との一元化は、實際に即した教育を極めて自然に行つた。

**學校行事** 今までは、學校で行はれる色々の行事までも我々指導から隔離されて考へられてゐた。しかしこんな機會こそ指導をより價値あらしめる時であると考へねばならない。行事そのものにも、より意義深いものにせんとするためには一つの指導大系におり込む必要がある。學校に於て行はれる四大節の國家行事は、彼等に確固たる國家觀を築かしめる機會である。運動會や、展覽會や、學藝會、音樂會はもう催し物の域を脱しなければならぬ。私たちはこれ等の學校行事をひろひあげて、それに必要であり、又最も相應しい所の指導を形づくつて行つた。具體的なやり方は以下の各章によつて明かにする。

**郷土行事** この立場からすると、郷土の行事も従前とちがった意味で指導の素材として取上げられねばならない。過去に於ても郷土行事は我々の取る所であつた。しかしそれは學習の對象として考へられる事が多かつた様である。殊にそれは低學年の問題であると考へられる事が多く、しかも無系統であつた。しかし郷土的行事は多く國家の行事と根源を同じうする事が多い。大地に立つた皇民を鍊成する上から云つても、子供たちにびつたりついた郷土人としての自覺をもたせる機會であるはずである。私たちはかゝる機會に積極的な態度で参加し、その前後をも充分指導する事にした。

**國家の要求と兒童生活** 指導が圓滑にゆく上から云つても、兒童の現實の生活を生かしてゆく事を考へなければならぬ。いくらこちらが求めた所で、子供たちの生活とあまりかけ離れてゐたのでは何もならない。私たちは出来るだけ彼等の今なしつゝある生活のよさを生かし、しかも彼等のもとめてゐるものを探し出す事に苦心した。しかしそれだけではいけない。國家が今彼等に求めてゐる所の事柄を、これはこちらから與へ、子供たちの生活の中に生きてゆく事を考へてゆかねばならない。

こんなにか考へることによつて、私たちがどの範圍の中で指導の機構を決定せねばならないかといふ事がつかみ得たのである。

## 2 生活修練の確立

**指導部の機構** 指導上の系統ある機構を持つと云ふ事は、私たちにとつて最も苦心を要する仕事であつた。それはその領域が廣いのと、指導する一つづゝが深く交叉しあつてゐるからである。しかし一つの機構をもつといふ事は、私たちの出發の目標の一つでもあるし、又指導部の機構を指導内容からも、指導の機構からも組織立てる事が、私たち自身としても新しい精神をしつかり把かみ得ると思つたからである。

先づ指導部が機構をもつ事にした。これは此れからの指導が相當、多岐に渉るであらう事が豫想されたので、我々自身の仕事も合理的に分擔されねばならない。そのみでなく指導する部面が明瞭である方が、子供たちにとつても都合のよい事であるし、指導者もそれぞれ異つた



能力をもつてゐるのであるから、この方が總力發揮がよりよく出来るわけである。それよりもつと大切な事は、私たちが今まで無駄な所につかつてゐた勞力を排して、機構の中に生活する事をまづなさねば、子供たちにやらせるわけにはゆかない。別々の力よりも一致した力の方がどれだけ強く、正しいかはもう明瞭なはずである。

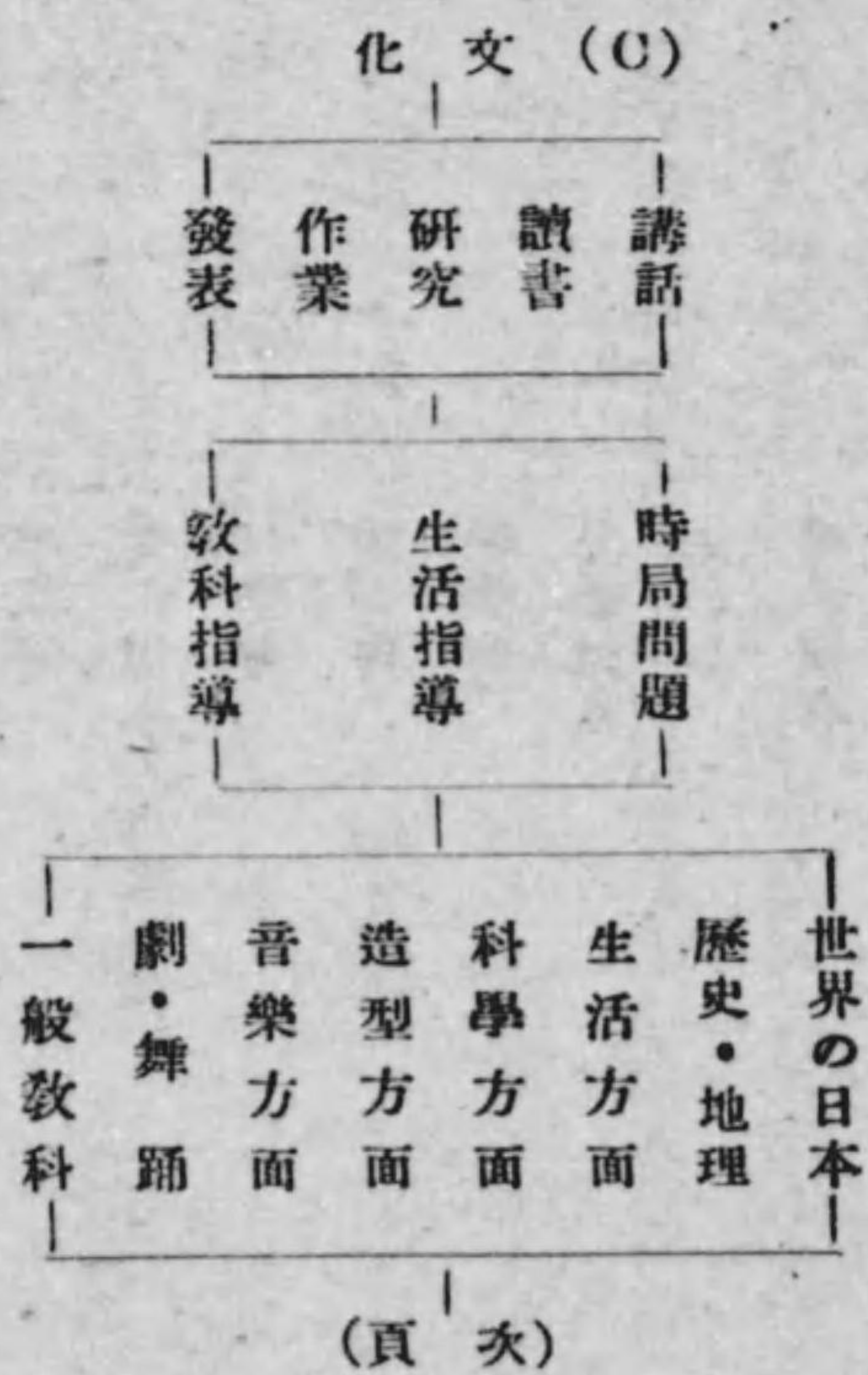
私たちは便宜上、仕事を五つにわけた。總務、庶務、訓練、體育、文化の各部門である。總務は大體、企畫を中心に、庶務は會計や物品に關する事務を全學年一括めにして、訓練・體育・文化は直接指導に當るわけである。しかし注意しなければならないことは、之が人材の分配ではなく仕事の分配で、備かな人數であるから適當に融通しながら事務をはこんでゆかねばならないことである。これは主として我々の仕事の自覺といふ事に大いに役立つたのである。勿論、指導者には兒童役員が各々隸屬してゐるのである。

**指導機構** 指導の大系をたてる事は急務である。勿論、國民學校に於てもそれはあり、その他の指導に於てもある。しかし再三云つた通り私たちは、子供たちに關する指導のまとまつたも

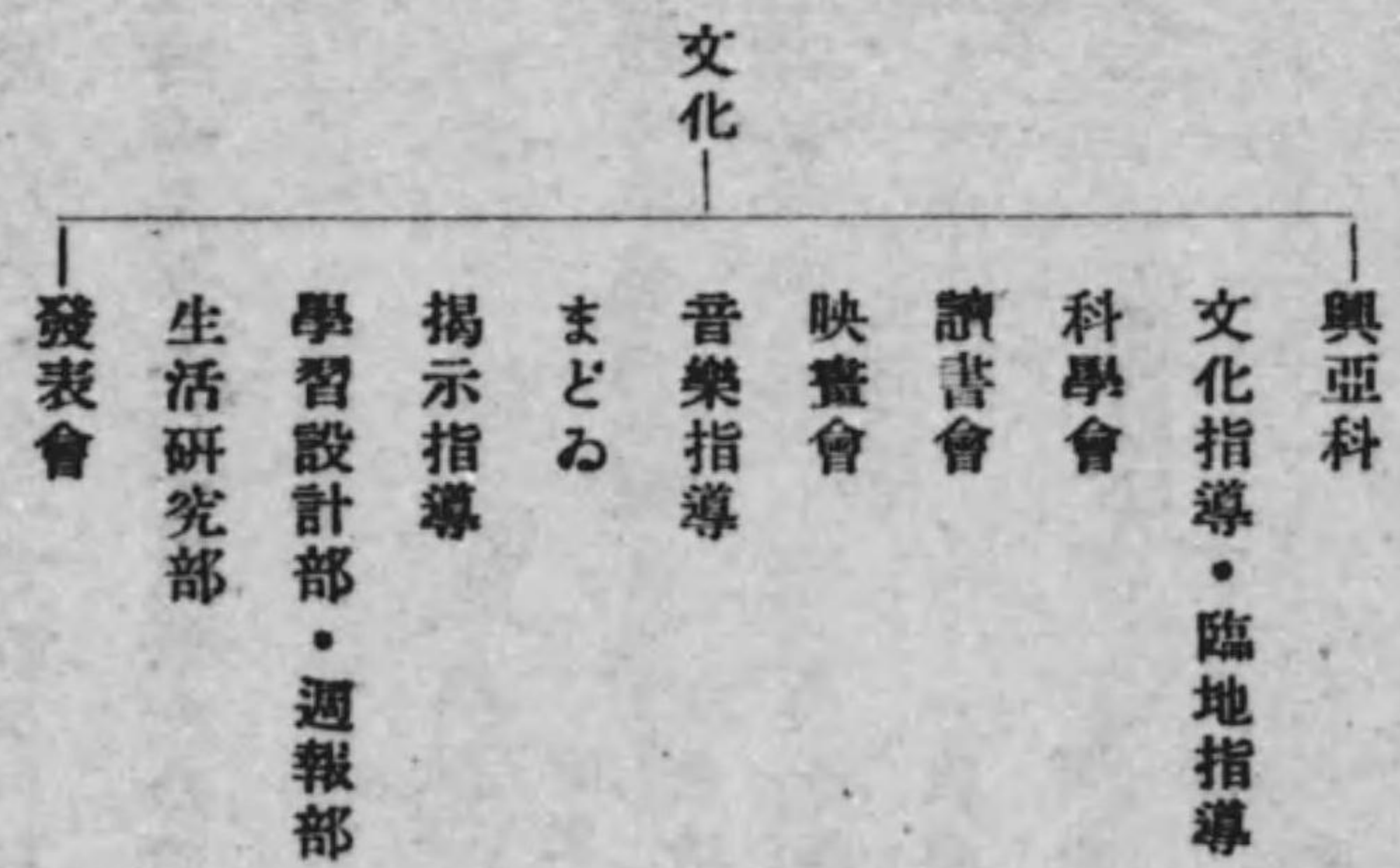
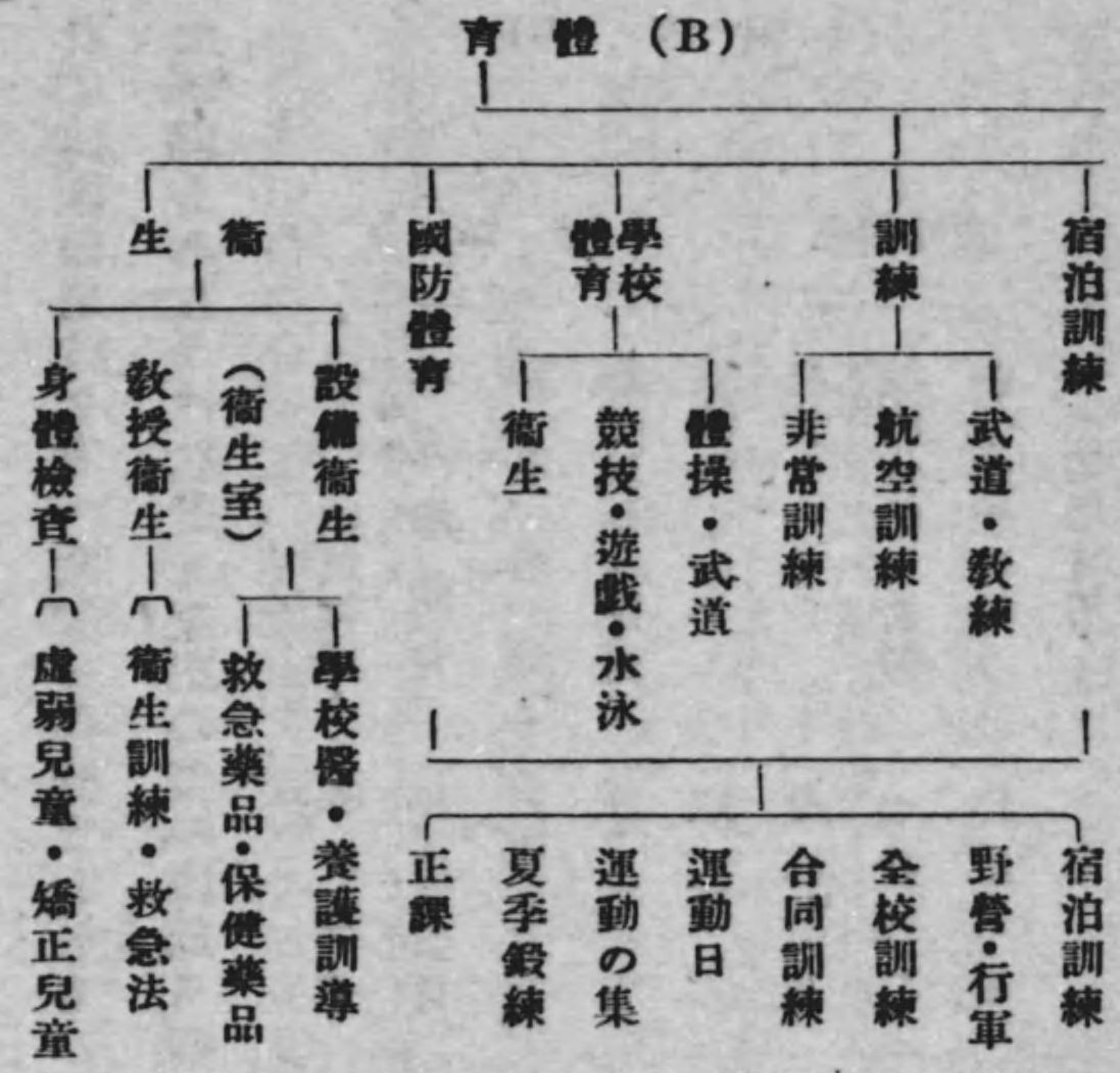
のがほしかつたのである。私たちはこの希望を實現するために、今存在するものの全てをよりよく改めて矛盾を感じずやれる様にといふ立前をとつた。先づ大部して三つの面を考へた。訓練・體育・文化である。そしてその指導の内容をあげ、それに諸種の施設を考へた。一律的であるものを分類して表としてみるのであるから、多少そこに無理もあらうけれども左記の表の様なもの私たちが指導大系として出来たのである。



四 指導の領域と機構



四五



### 3 特技章

**能力の自覺** 指導の目安として特技章の制度をとつた。これは従來の少年團の用ひてゐたものを研究して、修正を加へ、二十種定めたのである。

彼等は割合自分の力を知らない。或は知る事は困難かもしれない。そのために自分の力を充分出し切るとか、自分の能力を錬成してゆくといふ事をやり得ない事が多い。そして又、外から評價されたものをそのまま信じてしまふ傾向がある。随つて私たちは彼等に正しい評價を與へ、正しい自覺に導かなければならない。少年達はマークに對して非常な關心をもつてゐる。具體的な章を腕に附してやる事は、彼等が自分の力を知ると共に、他にその職域を認識さすよすがにもなる。この章を獲得するために大いに努力する事にもなる。特技章はこんなにして生れた。

種目 體育・武道・水泳・航空・相撲・自轉車・喇叭・信號・衛生・救急・野營・工作・機械・裁縫・事務・炊事・製圖・農耕・音樂・文化。(以上二十種)

將來への途 自分の能力を自覺する事はやがて職域を發見する事になる。子供たちは――主に

今まで成績不良の折紙つきであつた。——自分にもこんな技能があるのだとわかると明かるといふ氣持で將來を決し得る。地位や名譽をのみ狙つてゐた考へは當然これで變へられねばならぬ。自分の身につけてゐる技能と、その技能を磨き向上させてゆく事が本當によいのだと考へる様になる。

工作の特技章を腕につけた子供が、これはた下駄箱の修理奉仕をしてゐる。彼は過去の優等生でも品行方正の兒童でもない。しかし彼はすでもつと大きなものを得てゐるのである。將來への希望も共に描きながら。

**名譽章** 子供たちが力を知り、持場々々で働き出すと意外なほど力を發揮する。私たちは最も適當な所で「力を出し切つた」子供に對して名譽章を與へることにした。

報酬を目當の仕事や、認められ様とする行爲は卑しい。而し、そんな事を考へずに力を出し切つた姿は尊い。しかもそれが公のためへの奉仕であつたり、學友のためへの愛情のあらはれであつた時は大いにこれは讃へらるべきである。

私たちは公平な眼で子供たちを眺めて、公のために力を出しきつた子供たちに名譽章を與へて表彰してゐる。傳令としての任務を精實にやりとげたもの、行軍中、一滴の水も飲まず病人のためにこれを貯へつづけた救護班員等が今までに表彰されてゐる。

これ等と同様の事が班についても云ひ得る。秀れて良い班には班旗の上に名譽章が附される。班は主として、團體的行動について、よく協同され、しかも個々が働いてゐるかどうかが表彰の要件にされる。宿泊訓練、行軍、野營等の時は最も明瞭な表彰の機會である。

子供らは決して自棄的な態度はとらない。名譽章をもつものは誇をもち、自重するし、他のものは、それを嫉まず、その誇を獲るために營々として勵みゆく。

## 五 學校生活の刷新

### 1 一日の生活

**二列行進** 或る幹部會の時、一人の子供が登校下校は二列に整列して來たらどうだらうといふ意見を提出した。その時に友達を誘ひ合つて來たならば、遅刻する者や休む者が少くなるだらうといふ子供らしい意見である。生活刷新の意氣に燃えてゐる時であるから幹部は全員賛成した。總會で一同に諮つたが之も又實行し様といふので早速實行に移した。これは私たちも早くからやりたく思つてゐた事である。しかし主として私たちの眼のない所で實行しなければならぬから、もし下手に無理強ひをすると、目の前だけの者をつくる心配がないでもない。それで子供の氣持がむいて來るのを心待ちしてゐたわけである。二列行進は生活刷新第一歩としては相應しい仕事である。歩行訓練にもなるし、集團行動の下手な日本人を修練してゆく上にも効果が大きい。それで二人以上ある時は必ず二列になる事を第一要件とした。登校下校の

時は可能な範圍に於て班全體が集つて來る。誰か一名が指揮者となつて足並みを揃へて來る。こんな程度の事を定めた。

學校生活の清々しい朝は彼等の集團登校からはじめられる。

**各自の持場** 一日の勤務は校門立哨から始る。學校全體の入口に二名づゝたつた歩哨は、二列行進の成績、服裝の整備、奉安殿への敬禮等を注意してみる。學校に清々しさと整ひとをつくらねばならない責任は深い。その代りに相當の權限が與へられてゐる。例へ同級生、上級生であつても、この任務には敬禮をして通らねばならない。

**風紀係** 始業まで子供たちはそれぞれの持場で活動をする。風紀係は校舎・校庭の巡察をして清潔や整頓に注意する。殊に低學年の子供たちには懇切な世話や遊びの指導をする。かうして各學級の日直と協力して始業までに學校を清々しいものにつくりあげる。

**修服係** (女子班の擔當) のものは風紀係が注意したもの、或は自分から申出たもの、服裝の修理をやつてやる。はじめは並大抵の苦勞ではなかつた、けれど子供達の眞剣な努力と、その仕

事に對する全校生の理解は日に日に深まり、今では殆ど校内で卸のない子供がみつからなくなり、それと同時に感謝と敬愛の眼で見られるやうになつた。

その他、教室の整頓、教室の美化、學習の準備、子供たちは相當忙しい。

補導 朝會の時、講堂や運動場に整列するのは、餘り先生の手をからず、上級生のものが一・二年の小さい者の監督をし、指導をしてゐる。學校を大きな家と見なし、兄弟姉妹、互ひに相はげましあつて「立派な日本人」といふ考へを實現しようと努めてゐるのである。

全校一齊作業 今まで清掃作業は放課後行はれてゐた。そのためにどうしても一齊にやるわけにゆかなかつた。時間的に不經濟でもあり、本當の作業訓練はそれでは行ひ難い。そこで新学期から中食前の三十分を全校一齊作業の時間にした。

午前中の最終時が終ると全員作業の服裝をして班別に整列する。指導者から作業の要點を示されて後、班長は引率して責任區域へゆく。作業中必要な事は黙つて働くといふ事である。班長はよく指揮し、指導しなければいけない。

この外に一つの試みとして私たちの學年——高等科——から低學年の作業輔導員を出してゐる。どうしてもまだ作業に馴れて居ない子供たちは、一人の先生では手がまはらない事が多い。助手として彼等は働くのである。これは低學年から好評を得ただけでなく、指導者も最高學年の自覺を持つやうになり、日常生活にも兒童の自肅ぶりが見受けられて喜んでゐる。

こんなにして作業が終ると、サイレンの合圖で擔當區域で整列する。指導者の點檢と點呼とが終つてはじめて解散するのであるが、こんなにする事に依つて校内が非常に美しくなつたのみでなく、集團作業とか、作業の秩序とか云ふ事が全校に徹底したやうである。

放課作業 こんなにして學校生活も一步一步刷新され前進してゆく。學習も勿論この意氣でやられるのである。これから授業の終りが學校生活の終りといふ考へも捨てられて行つた。

放課後もそれ／＼の仕事をやらなければならぬ。風紀係は校内の整理を、或は教具の置場特別教室の整理等を完全になじて明日の生活に差支へない様にしなければならぬ。各役の日記の記入、指導者への報告も大きな仕事の一つである。

その他のものは「私たちの農場」の手入れを行ふ。作物は一日の手ぬかりをも許さない。放課後一時間あまり汗の作業が行はれる。

一應の仕事が終ると遅れてゐる場所を助けて一齊に完了する。忠魂碑——校門内にある——前に班別に整列して、靜かに一日を反省し、明日の修練を誓ふ。そして班別に整列して規律正しく下校する。一日の生活はこんなにして終るのである。

## 2 一週の生活

**生活設計** 一日の生活は大體、一定の形態でくりかへされるが、一週間となると相當變化ある事が多い。勿論私たちは月の始めに一ヶ月の生活豫定表を作成してゐるのであるが、實際生活では更に詳細なものを要する。毎週木曜日の幹部會で幹部と指導者は次の週の生活の設計を立てる。

主として週間行事の内容、週番勤務の力點、作業の力點、學習方面の要項等を立案して通達し、その實行に關して下情も聞く。これ等を素材として指導者の打合(主に金曜日)で生活設

計表が出来上る。こゝで子供たちの生活豫定が出来ると共に指導者の週間の指導具體案も出来る。ともすれば惰性でゆかうとする私たちの生活に日々これ新なる感が湧き上る。

**週間行事** 生活設計の時、相談される週間行事について明かにしてみよう。

始業前一時間、學年一週に一回早天修養會といふものが行はれてゐる。これは五年以上の學年が數年前から實行してゐるものである。内容については次の章で述べるが、學年としての實行方法を決定して行つてゐる。興亞室講話は火曜日に行はれる。これも興亞科の項で詳述する。第一土曜と第三土曜の午後は作業の日にあてられてゐる。木曜日の放課後學年の「運動の日」を實施する。そして月最後の木曜日は「運動の集ひ」——小さな競技會——が行はれる。

會合としては幹部會(木曜日)、指導者會議(金曜日)、總會(月一回)等がある。これ等のものが私たちの一週間の定例行事として相談せられるのである。

**週間勤務** 一週間の生活を設計の通りに實行してゆく爲に、又子供たちに責任のある仕事をや

らせるために、班單位に週番別を布いてゐる。班長が週番長となり、班員の中から各學級二名の日直を出す。日直は主に學級の管理、その他の細々した仕事を擔當する。その他に二名の傳令を指導者の下に出す。傳令は主に指導者室の雜務及び各方面との連絡の仕事をする。これ等のものは通常一日交替として一週間で全員が一回はその勤務に就く事になる。今一つは、男子の班員は立哨勤務に、女子の班員は修服の仕事につくのである。そしてこれ等の實際指導に指導者が交代で週番の司令となつてゐる。

こんなにする事によつて、今まで別々に行動してゐた勤務者は一つの系統下に括つた仕事をしてゆく事が出来るし、彼等自身の設計によつて、責任ある經營が行へるわけであるから自然仕事にも熱が入ってくるのがみうけられる。

一日の生活、一週の生活、子供たちは刻々と彼等の生活を改變し、建設してゆく。目にみえて——失敗もあり、迂遠な事もするが——學校生活が活氣を帯びて來る。

### 3 各部の活動

**役員告知板** 兒童役員の爲に告知板を設けてやつた。かうするのが彼等が自覺して責任ある仕事をしてゆく上に効果があると思つたからである。初めはあまり活用されてゐなかつたが、今では中々便利なものになつてきた。或日の告知板を素描してみる。

「この頃、餘り書物が出ません。もつと活用して下さい。」

衛生検査 來週月曜、爪、ハンケチ、マスクに注意。

この頃少し紙の使用が亂暴になつた様です。もつと節約するやうにして下さい。

來週の作業豫定表、提出して下さい。(木曜日まで)

週報の原稿募集します。

日曜日に練兵場で模型グライダー競技會があります。きそつて参加して下さい。

圖書部  
衛生部  
備品部  
作業部  
週報部  
科學部

**役員部の發展** 兒童役員部は私が學級經營を單獨でやつてゐた時分の五つの部(二五頁)が成長

したものである。成長した原因は色々考へられるが、人数が増加し仕事も複雑になつた事もあり、それにもう兒童の手で相當大巾に仕事をやらせる方がよからうと思つたからである。

しかし彼等は全く独自の立場でやるのではない。私たちは兒童を指導する目的で役員も設けてゐるのである。だから彼等は常に指導部の五つの部門に屬してゐるわけである。

仕事の内容は告知板の素描で大體わかつて戴けようかと思ふが簡単に全貌を記してみる。

風紀部と奉仕部は總務の下にある。風紀部の仕事は以前に述べた。奉仕部は主として奉仕作業、修服作業に關して企畫をやり指導をする。廢品回収といふ様な仕事もこの部が計畫する。

週報部・圖書部・備品部は庶務の指導による。週報部は週報の発行のみでなく、印刷全般をするのであるから、謄寫版の技術は心得てゐる連中ばかりである。圖書部・備品部は保管だけするのでは不十分である。物品購入とか、新刊紹介、物資節約の計畫などを指導者の指導の下に實施する。この三部は仕事の性質上文化部との連絡が絶えず行はねばならない。

作業部・運動部・衛生部は訓練・體育の一機關としてある。計畫、用具の保管、修理、参加の督勵等相當忙しい。強健な體力も必要である。衛生部は全校一齊作業の時の檢閲、身體檢者

査の結果整理もなさねばならない。

文化部は興亞部・藝術部・科學部・學習設計部を指導する。

興亞部は時局に關係のある資材を常に蒐集し、整理してゐる。時には各班に圖表の製作を命ずることもある。新聞記事は彼等の手で切貼されて整理されてゐる。

藝術部は、音樂指導、展覽會、音樂會、學藝會の計畫準備、まどゐの主催などを司る。生活に豊さと、正しい美を獲得するために彼等は全員を指導してゆかねばならない。校舎の隅々に空瓶の花挿が設けられたのも、所々に時局に叫ぶ子供らしいポスターの貼られてゐるのも藝術部員が奉仕部と語らつてした仕事である。

科學部は科學振興のために特設されたものであり、科學會の事務をする。これは科學會の所で明らかにする。學習設計部は學習の豫習の事項や、準備すべきものを研究し豫告するのである。相當効果が認められ、一般にもよろこばれてゐる。學期に一回の程度で研究物の發行も豫定されてゐる。

指導者も驚く位、子供たちの活動は大きい。私たちの計畫した機構を具體的にしてゆく事に



よつて眼にみえてよくなる生活を私達はじつとみつめつゞける。

## 六 修道生活の確立

### 1 朝の修養

**早天修養會** 激しい流れの中に微動もしない巖がある。日本人の生活の姿はこれではなからうか。激しい活動、健全な變化は建設時代の常ではあるけれども、日本人は常にその中に靜かに身を持つる事を忘れない。と云ふより、それが激しければ激しいほど不動を求めると云ふ方が適切であるかもしれない。吾々の修道生活といふのはかうした日本人の動中靜の生活修練を行はうとするものである。

定められた日の朝早く子供たちは靜かに運動場を集る。早朝の學校は極めて嚴肅である。遙かに東を拜して、黙して皇國の彌榮を念ずる。それが終ると各班別に計畫して提出された豫定表に従ひ作業に移る。講堂(これは常に含まれる)、奉安殿、農園、校庭、道路等、場所は彼等の計畫によつて異なるけれども、變らないのは、一言も語らずに仕事をする事によつて我々は

磨かれるのだといふ態度である。作業が終ると、清掃された講堂の床に静坐して指導者から修養講話をうける。或ひは彼等によつて偉人傳の輪讀が行はれる事がある。

月に一回は男子と指導者との火の出るやうな武道鍛錬の機会にされる。

激しい働きを終つた、虚しい心にしみじみと響く指導者の話は彼等の心に日本人としての灯を點する時である。

**朝會** 朝會は嚴肅な誓ひの式であるとも考へられる。自分たちの本分を考へて皇國民として修練の道をゆく事を誓ひあふのである。私たちは毎朝、一日の出發に當つての誓ひの式を行つてゐる。

サイレンの響と共に何處にゐる子供も皆停止をする。そのうちに音楽が音盤によつて鳴らされる。それに合せて定められた所に行進してゆくのである。雑談する事、歩調を亂す事は絶対に許されない。もう子供たちはサイレンの音と共にこの集ひに臨む氣持をもたねばならないのである。それから又一切號令はかけられない。集れば列を正す事は當然なのである。低學年に

は輔導員が附添つて整頓をたすける。

國旗掲揚、宮城遙拜、宣誓、運動場の朝會の時には訓話は殆どしないことにしてゐる。それから合同體操、レコードによつて學級別に正しい歩き方で、正しく列をつくつて教室へゆく。朝の集りはこれで終るのであるが、日曜日は講堂で之が行はれる。この場合は神殿を拜し、學長の訓話を聞くのが主になつてゐる。

朝會は誓ひの式である。一日の生活を皇民として修練せんがための誓ひの式である。私たちは子供たちに、天皇陛下に、父母に皇民として恥ぢない生活の誓ひを徹せしめるために、最後に各個禮拜——宮城と各自の家へ向かつて——をも行つてゐる。

2 日 參・月 參

**興亞奉公日** 毎月一日の興亞奉公日には全校兒童がその日の仕事初めに學校から三軒ばかりある春日神社に參拜する。始業前一時間に集合して、往復六軒の道をゆくのであるが、途中は一切話さない事になつてゐる。正しい團體行進をしてゆくのである。初めはこれがむつかしかつ

た。相當長い距離であるし、長い時間である。従つて初めのうちは一定の距離を區切つて無言を徹底する様にした。それが出来るると距離を伸して行つたのである。今では一年生の子供まで口を結んで、月の始めの神参りを肅々と實施する様になつた。

歸校後、或ひは歸校の途中、大きい子供たちは計畫された奉仕作業をするのである。

**氏神日参** 支那事變が始まつて直ちに始めたのが氏神日参である。これは皇軍の武運長久や傷病將士の平癒祈願をすると共に、次にすゝむ私たちであるといふ氣持を子供たちの胸に刻みつけるためであつた。勿論始業までに行つてくるのである。参加する方法は毎日一學級が交替で参拜、日曜日も雨天も問題外である。休暇中も行はれる。

かうして日参旗を先頭に今までに千五百日以上繼續して來た。今では参拜するだけでなく、作業用具をもつて行つて境内の清掃奉仕をなすのが常識の様になつて來た。

**英靈への感謝** 神に詣で、祖先の靈前にぬかづくのが、日本人の修道の姿であると思ふ。私た

ちは護國の英靈となられた祖先に深い感謝の心を捧げる。事變以來、之は子供たちにとつて抜く事の出来ぬ修道生活の一つとなつた。

支那事變記念日を記念して興亞室が新しく完成された。こゝには區内の今次事變の英靈が安置されてゐる。私たちはこの室に毎日、清掃奉仕をし、この室に集ひ、英靈の勇姿を仰ぐのである。そして私たちも必ず、この聖業の後に續いて進むのだと胸に深く刻みこむのである。

その他、事變記念日、靖國神社大祭の日、春秋の彼岸に、盂蘭盆に、命日には慕参をし、供花、清掃などを子供たちは誠心もつて續け行つてゐる。

### 3 心と仕事

**作業態度** 作業が精神主義に墮してしまふ事は謬りであると思ふ。しかし或程度——子供の心とあまり離れない程度の——の心の働きを作業の中に求めてゆく事は大切である。

私たちは子供たちに黙つて仕事する事を求めてゐる。子供たちにはたしかに辛い事である。しかし、このつらさを克服して得るものは大きい。黙々として汗する事が尊い生き方であると

いふ體驗を得させると共に、仕事に没入し得るといふ態度を養ふ。

私たちはこんなにする事によつて明るさを失はしたり、或は壓迫感をもたしたりしたくなかつた。指導の方法としては時間の短縮をして無駄口をきく餘裕を興へない方法もとつた。責任をもたす事によつて熱情を注がす事もした。リズムに合す事も試みた。要は形の上で完成するのでなしに、心の奥で私たちの求めるものに共鳴させたかつたのである。

**黙働作業** しかしこの事は相當骨の折れる事であつた。ともすればこちらが根負けしさうであつた。だがどんな困難な事でもやらねばならない事は貫徹する外に方法はない。

私は一つの試みとして放課後の時間に腰板磨きの作業をやらせることにした。そして之を黙働作業と呼んだ。話の多い女の子は十五分の時間も支へ切れないやうであつた。

私は子供等にこんな話した。「この腰板をお前たちが卒業まで磨きつゞけるのだ。一日の時間は少くとも毎日やる事が尊い。そして黙つて磨きつゞけると板は鏡の様になるだらう。その時にはきつとお前達の心もこの板の様に輝きをもつのだ。」

幾月か、かうした黙働作業が続けられた。そして黒く雨露にさらされた腰板が本來の地肌を見せ出した頃、子供たちの心にも不思議に作業に對する希望を持ち出した。この心の状態は板に心の通つてゐるのを感じさせられた。勿論おしやべりはなくなつて靜坐した禪僧の様に板に向ふ子供等が見出され出したのである。

黙るといふ事と、仕事といふ事と、心の修練といふ關係が漠然とであるが、彼等の心に掴める様になつて來たのであると思はれる。黙働は一應形づくられて來た。

**便所掃除** 「學校の便所はどうも穢い。」と子供たちが云ひ出した。建築そのものが非常に粗末な上に、人員の割に個數が少い。それにどうしたものか掃除は今まで小使さんの手に任されてゐた。これでは美しくなる筈はない。しかし便所の汚れてゐるのは不衛生であるし、面白い事ではない。もう掃除に關しては相當考へもすゝんでゐる彼等であるから私は暫く干涉しなかつた。そのうちに相談がまとまつたらしく數人のもが掃除にかゝつた様であるので私も參加することにした。相當汚れてゐる。子供たちは天井から床板まですつかり淨化した。まるで穢い

事など忘れてゐる様な顔である。すつかり美しくなるまで相當の時間がかゝつた。もう薄暗くなりかけたその場所で子供たちは次の實行の計畫に移つてゐる。便所掃除は毎日當番制で行ふこと、淨化の思想をひろめるため、ポスター・標語を貼ること。修理を男の子にたのむこと、花を挿して穢い所といふ考へから轉じさせることなどが決せられた。

私はよろこんで全てに應援する事を約束した。

子供たちは逡巡せずに行行する。しかも實行した後で、その仕事を誇らうとはしない。

生きぬく現在が子供にとつては尊い生活なのである。

私は又一つ、美しい心の仕事を始めてくれた子供たちの歸途につく姿を見送つて、私たちの今やりつけてゐる仕事のよろこびを感じた。

## 七 宿 泊 訓 練

### 1 一 つ の 計 畫

目的 今まで最も力を入れてやつて來たのは宿泊訓練である。一月に平均五回は行つて來た。私たちは宿泊訓練を行ふ事に一つの教育的な信念をもつてゐる。やらねばならない氣持に差迫られてやつてゐるわけである。

衣食住を共にするほど深い共同生活は外にない。生死を共にしてはじめて結ばれる戦友の情が肉親のそれよりも強い事のあるのにも似てゐる。子供たちはこんな生活が學校生活の一頁にあつた事を記憶するであらう。そしてその一頁を想ひ出した時、その生活を共にした人々の姿をまざ／＼と想ひ起すであらうし、その時に語りあつた話を今更の様に胸に復誦するであらう。これより大きい印象はない。これより強い教育はない。過去の日本教育が誇る、塾教育に潜む生命は、こゝにあつたのだと考へてゐる。むづかしい理窟ではなしに、この生活共同の心

強い楔と塾教育の神髓に寄せる教育的思慕が、何かものたりない今までの教育の形態をこゝまで押進めて來たのである。

全生活を共にする事は、兒童相互の心の中に云ひしれぬ信頼の念がおこり、更に指導者と渾然一如の世界があらはれる。しかも子供たちは生活にあらねばならない秩序を知るのである。そしてかゝる集團生活が自分たちの將來になくはならぬ生活である事を感じるのである。

**方法** 宿泊訓練と私たちが稱してゐるものは方法は一定ではない。色々の場合が考へられてゐる。例へば日數によつて一泊のもの、或は數日に及ぶもの、場所によつて、校舎を用ひて行ふもの、寺院とか宿泊のための道場を利用するもの、或は野營、或は又宿泊そのものが目的である場合と、他の何かの指導をなすための宿泊等が考へられる。何れをとるも可であつて、一つに偏しないやうにしてゐる。

私たちは主として宿泊する事が目的である場合を主としてゐる。始めは何回も繰返したかつた關係上、校舎で一泊の訓練といふ方法をとつた。本當から云へば三泊乃至四泊位が適當であ

る。しかしその態度が出来てゐないうちに、あまり長期に渉る事はかへつて訓練を亂す事にならうと思はれる。ゆつくりした計畫でやりたい時は、土曜から日曜日にかけてやればよいし、又平素の授業のある時でも充分行ひ得る。後者の場合は授業も包含した指導が行へてかへつて面白。

この場合、周到なプランと指導の態度をしつかりもつてゐなければ駄目である。たゞ泊らすだけでは、必然から生れた教育の機會にはなり難い。私たちは簡単な宿泊訓練をする場合でも又それがいくら繰返された後でも指導者は事前に計畫會議を行ひ、指導案を立て、反省のための會議及び記録まで漏れなくやる事にしてゐる。

本筋ではないが最も簡便な方法を附記すると、それは指導者の宿直の日を利用して子供たちを夕食後登校させ、一夜生活を共にし、朝食前に歸途させる方法も初歩としてはよいと思つてゐる。

**準備** 準備は周到でなければいけない。周到であると云ふ事は充分であるといふ事ではない。

訓練の目的と一致した準備といふ事である。時には用具や物資が足らなかつたり、場所が狭かつたりする場合も必要である。そんな場合にこそ、彼等は物に對する考へをもち、本當の戰友感を抱くものである。

計畫表が出来れば、それによつて用具・資材の準備にかゝる。前述の通り時として違つてくるが、宿泊する場所を準備する。裁縫室・作法室等の畳の間は最も利用し易いが、それに限つた事はない。普通教室で十分事足りる。寝具はまとめて借る所があればよし、なければ家から毛布・外套等體質に應じて凌ぎ得る程度のものをもつて來させればよい。食事は炊事計畫によつて物品の購入がなされる。飯盒・或は釜が準備される。燃料も必要である。指導者は一應衛生室の醫療具を點檢しておく。その他の事は時と場合に應じて研究されねばならぬ事である。

**性別の問題** これで一應宿泊訓練が出来るのであるが、こゝで男女を如何にあつかふかが問題である。普通男女を別にするのが常識の様であるが、この場合根本的な原因がある様に考へられない。社會の一般常識に則つてゐる様に思へる。私たちは班組織の場合男女を一括して一班を組織した。従つて宿泊の場合も班單位に指導するのを原則としてゐる。實際に行つて見ると

案外なもので、炊事計畫は女子が必然的に擔當し、薪炭の用意や物品の運搬等の雜役は男子が擔當し、自ら男女の道が行はれて、生活して初めて異つた持場を發見し、この兩者が相俟つてはじめて事の完成がみられるのだ、と云ふ自覺を與へるお互の立場を尊重しあひ、理解し合ふ習慣もつくであらう。兎も角私は幾分の異論もおしきつて實行した。そして清らかに伸びてゆく彼等をうれしく眺めてゐる。

## 2 鍊成の效果

**兒童の場合** 宿泊訓練については種々の議論もあるであらう。色々の理論もつけられよう。それ等は私たちの心の中に持つて居れば良い、私たちは皇國民として成長してゆく子供たちを見守つて居ればよいのだ。そして自分たちの教育行が少しでも「ヨイコドモ」を鍊成する力になれば、それをよろこびとしなければならぬ。

目に見えて子供たちはよくなつてゆく。私たちは、否、どんな人もこの事實を否定するわけにはゆかない。

仕事に對する態度が變つてゆく。身體の動かしかたも變つてみえる。

今まであまり指導者の命令に反應を表さなかつた子供が、回をかさねるに従つて眼を輝かしてついで来る。事實、一晚を共にくらしから子供たちは指導者を他人と思はなくなつた様である。自分の生活にとつて置きかへる事の出来ない尊い存在の一つだと感じ出したのである。今まであまり話もしに來なかつた子供まで、もう逡巡はしない、食を共にし、同じ床に寝る事の大きな神秘の力のなすわざであらう。

又子供たちは規律的な生活態度を獲得する。食ふことにも、寝ることにも、今まで經驗をしなかつた規律のある事を發見するのである。早く起きる朝の空氣の清々しさも。

規律的な生活は道徳的な生活とむすびついてゐる。最も信頼せねばならぬものは指導者であり、友達である。これ等の力なくては自分はない。生活といふものが一人の力では營み得ない事を知ると同時に、彼等は彼等の中に、自然にしかも必然的に構成された秩序による生活へ入つてゆく。黒板をかりることのない道徳教育が生れるのである。



**教師の場合** 或宿泊訓練の夜、一人の子供が熱を出した。大した事はなかつたが、家を離れてゐる心細さが手傳つたのであらう、涙をためて天井を見詰めてゐた。診療を乞ふほどの事はなかつたので私は一晚その子の側に床をとつて寝ることにした。友達は心配をして金盥に水をくんで来る。良いから寝ろといつても中々寝ない。その子も暫くはじつと閉ぢた目蓋から涙を流してゐたが、やがて寢息をたてはじめた。私はその夜、額の手拭を更へつゝけた。

朝になつて、その子は「先生」と云つて昨夜の手拭をかへしに來た。どうだと聞くともう大丈夫ですといふ。そしてじつと動かうとしなかつた。「先生、昨夜は有難うございました。」と云ひたいんだらうが、そんなことばで云ひつくせない感激がこみあげてゐるのである。私にもそれはよくわかる。私はだまつて手拭をうけとつた。

又、或夜中、側の子に蒲團を占領されて丸くなつて寝てゐる子供があつた。私は私の掛蒲團をその子の上に眼をさませぬ様にかけてやつた。明方、ふと眼をさますとその蒲團が又私の上に歸つてゐた。そしてその子は隣の子の背中に抱きついて寢息をたててゐた。

私はその小さい背中をみて、「私はもう何もいらぬ。」と思つた。



### 3 夜と子供

家 夜といふものは不思議な力を持つてゐる。大人に對してでもさうであらうが、子供にとつては更にさうである。お伽話の様な夜についてのこの一節は宿泊訓練を實際やつてみると案外大きな経験なのである。

全てが闇につつまれて心が外にひかれなくなるにつれて、心は内へ内へと働いて来る。今まで気がつかなくつた、そして彼等にとつては切離す事の出来ない家の事が先づ胸に浮ぶ。たとへそれが一晚であらうと子供にとつては淋しさは同じ事である。征旅にある人々の心と同じ位それは強い。父・母を更めて心に刻む。ことに今日自分でやつた炊事や掃除が、家での生活と比べられる。寢床に入つてからいよゝゝ静かになれば更に強い。弟や妹はもう喧嘩相手ではなくなるのだ。明日からの家での生活のプランがあれこれと胸に描かれてゆく。

さびしさ その懐しい家と今夜は別れてゐるのである。いよゝゝ強く家が感じられると同時に

さびしさが胸一ぱいにひろがる。窓外の静寂の闇までが淋しい。

彼等の心にはこんな虚ろな間隙が出来る。そこへ入つてその心の隙を埋めるのが指導者であり、友達である。こんなにして夜は私たちの生活を固めてくれるのである。

宿泊訓練の意義の一つはこゝにもある。家や兄弟がわびしさと結ばれて子供達の心にかへる時、子供の心に祖國感が最も純粹に萌えてゐる時であると思ふ。

### 4 或日の記録

計畫表 「第二班宿泊訓練計畫表」

時 限	集 合	訓練要項	文化指導
四・〇〇	第 四一六・〇〇 炊事・夕食	目的 一、班の團體行動の確立	目的 一、文化活動をなさしめ生活の反省の機會とする
一 六一七・〇〇	食器手入點檢	一、動作の敏速・正確	一、教養の時をあたへる
日 七一七・五〇	教 練		

(曜 土)

八・八・三〇 文化指導  
 八・三〇 まどろ  
 九・二五 夕禮  
 九・三〇 就寝

要項 一、集合 一、敬禮  
 一、號笛に依る動作  
 一、行進練習

要項 一、炊事計畫  
 合理と榮養

第 二 日 (曜 日)

五・〇〇 起床・洗面  
 五・二〇 朝禮  
 五・四〇 炊事・朝食  
 七・〇〇 手入・點檢  
 八・〇〇 作業  
 九・三〇 教練  
 一〇・〇〇 解散

要項 一、用具の使用整理  
 一、農耕と校庭修理

炊事  
 一、壕の作成(男)、その他  
 準備(女)  
 一、男子は飯盒炊爨 女子  
 副食物  
 一、黙働と合理  
 一、用具の完備と整理

一、文化指導  
 1 新聞の活用  
 2 歐洲情勢  
 一、夕のまどろ  
 1 計畫(文化部)  
 2 演技・作業  
 3 映畫指導—映寫法  
 (科學會員中心)

**炊事** 計畫表によつて第一に炊事に關する指導をする。これは主に女子の仕事である。指導者から大體の方向と費用を指示されると子供達は副食物の献立をつくる。班員の力となり、そして楽しく食べ得る様に誠心こめた研究でなければならぬ。米が一合であるから副食物に饅頭を入れて量のおぎなひをする。農場の作物を利用する、など彼等としては勢一ぱいの献立が出来る。農場の作物は生産部への傳票で準備され、後のものは市場で購入する。四十人の班員の力を養ふと思へば楽しい仕事でもあるし、又尊い研究課題でもある。

檢閲をうけた献立表によつて調理にかゝる。合理的である事が先づ求められる。燃料・時間の節約・物資の活用・清潔等綿密な注意がはられる。

主食物は男の子によつて校庭でたかれる。飯盒の御飯もこの頃ではほとんど失敗はない。十個の——一個四合四人分——飯がたかれるのが全時間で三十分足らずである。

假令味はどうあらうとも榮養は十分である。それに誠心が籠つてゐる。自分たちの働きの結果出來た「食」である。園樂の裡に感謝の念をもつて戴く。私たちはこの場合の夕食は和やかな家庭的な氣持で、朝食は嚴肅な朝の出發の營みといふ氣持でやらしてゐる。

**夜間訓練** 照明燈に照された校庭に子供等の號令が響く。夕食後の食器手入と厳格な點檢が終ると校庭で教練が實施されるのである。晝間と異つてあたりの雜音がない。一人で身がひきしまる様である。こゝで彼等は規律ある鍛鍊をうけるのであるが、この時彼等の心にひしと感じるものは頼りになる友達であり、信すべき指導者である。班の團結が號令一つで動く集團的な行動にありくと見える。又夜間のかうした訓練の目標は夜間の動作に馴れる事である。眞黒い闇の中で敏活に行動する必要は子供たちの現在にも將來にも大切なものなのである。

引續いて夜の精神訓練として文化指導のまどろの時間になる。一つ灯の下で疊に坐して、地圖を圍んで世界の情勢を語り合ふ。同じ地圖ではあるが教室の前に掛けられてゐる時とまた違ふ印象を與へる事は否み得ない。膝を交へつゝ日本人としての精神を揺動かしつゝすこすこである。

禮拜、反省記録、各個禮拜、訓話、點呼と、夕禮が行はれて子供等は眠りにつく。薄暗い廊下を不寐番の子供の歩みが誠實な刻みをつゞけてゐる。

## 八 健康教育の實際

### 1 生活の鍛鍊化

**鍛鍊第一** 理窟を云ふ必要はあるまい。體位向上はもう老幼に到るまでの合言葉である。私たちは青少年の生活の中にこれを實際植付ければよいのである。彼等の生活は決して靜的なものではない。彼等の四肢は靜止する事を本能的に拒否してゐるのだ。しかしその活動はそのまゝでは誤まられ、浪費され、後には退嬰してゆくものである。従つて彼等の活動の經過を善導しより體育的ならしめ、それが將來へ伸展する様に計ればよいのである。そこで第一に子供たちの遊びの體育化をはかつた。子供たちの遊びは健康的なものもあるが、中には不健康なものもある。殊に家庭での遊びや町での遊びは私たちの求めるものと反對である事が多い。私たちはこゝで子供たちと共に遊ぶ様にした。放課後、中食後、指導者が中心となり、或は班毎に共に運動したのである。これを手はじめに運動への施設も考慮し、登校下校の際の正常歩の強化は

正等生活の鍛錬化をはかつたのである。

**運動の集ひ** 運動部には全員を参加させることとした。放課後は彼等の好む競技に時をすごさせる事とした。そして木曜日には運動の日と特定して、指導者からそれぞれの指導をうけるのである。積極的に運動に参加する態度、これが私たちの望む所であり、日本人の將來にとつても必要な事なのである。だから強制感を出來るだけなくし、彼等の氣持がもり上る様に努力した。出席も運動部員が自發的に點呼するにまかせた。心配する事はない、彼等は太陽の子なのである。運動日は勿論、放課後の校庭は彼等の營む體育道場になつたのである。更に子供たちの希望をいれて第一土曜日の午後の作業の後で「運動の集ひ」を催すことになつた。班別の球技の試合や、陸上競技、體操等は子供たちの楽しみの一つになり、一層運動部の活躍はめざましくなつて來た。

日にやけた子、倒れない子、よろこんで運動する子、數年前とまるで異つた子供たちの姿をみて、この一つの試も無駄ではなかつたと思つた。

**學校體力検査** 更に全校の健康教育が合理化される様にといふので學校體力検査規準がつくられた。これは主として四年以上のものが合格出來る様に——合格することによつて更に積極化することを狙つて——といふので低い標準をとつた。

走(百米) 男十八秒・女十九秒 走巾 男三・四〇米・女二・八〇米 走高 男〇・八米・女〇・七米、懸垂屈臂 男三回・女二回。

五六年位は大日本體操聯盟制定の少年級のもの、全合格を、高等二年は國民體力章檢定初級の合格を目標にすゝめた。子供たちにとつてもよい自覺の機會になるし、指導するものにとつても都合のよい目安となつた。(初級合格は高二で六名ある。)

それに附隨して體育手帳の活用が行はれる。これは健康訓、體格標準、體力檢定標準、體操の教材と、私のからだ、私の力といふ體格・體力を記入する頁を入れた小手帳を作つて全校兒童にもたしてゐるものである。私たちは更に健康調査票といふものを作つてこれを指導者の手元に所持しておく事にした。それには體格、體力、特殊技能、要修鍊方面、疾病等を常に記入

してゆき、強壯兒、要鍛鍊兒、矯正兒、虛弱兒等、運動・作業等の指導上の手引にしてゐる。

**體育觀の樹立** 青少年の時代だけがこんな生活であつたのではない。いや青少年でさへまだ十分とは云へない。もつと彼等の心の底から體育に歸依し、健康な日本を願ひ努める態度をつくらねばならないのである。厚生省が出來、國民の體位向上を叫ぶ聲は喧しい。しかしあらゆる運動に、施設に心から信じ切つて參加してゐるものがどれほどあらう。今の大人は青少年の頃に餘りにこの事に無關心な生活をしたのである。これからの國民はこれではいけない。青少年の時代に確固たる體育觀をつくつておかねば、今の健康教育への努力も無駄に等しいものにならう。殊に私たちは女子に體育觀をもたす必要を痛感してゐる。第二の國民の母となる我等がしつかりした體育觀をもち、生活の體育的合理化をはかる事こそ國民永遠の力の大本である。

## 2 體育の集團化

**合同訓練** 體育は個人の鍛鍊から集團的な鍛鍊へ渡つてゐる。集團體育はあらゆる方面に叫ばれてゐる。集團のもつ力、そして集團の行動が描く能力と美しさとは大きな意味をもつてゐる。月曜日の午後の一時間は全校合同訓練の時間である。合同體操、行進、棒引き、一人の指導者の號令で子供等の集團は整然と進退する。更に私たちの學年は木曜日の放課後を合同訓練の時間にあてゝゐる。學年が一團となつて動く。そこに彼等は集團の力を發見し、團結の念を固める。それは學校一心の姿となり、やがてそのまま舉國一致する國民の態度ともなる。又、その他の場合にもあらゆる機會に集團としての行動を反復さす。夏期行はれる市の體操の會に堂々集團を組んで二十日間入場しつゞけた姿は一般人に一つの教示を與へたものと思つてゐる。

國民の集團的訓練が緊急の要務とされてゐる時、私たちは更にこの方法を押進めねばならな

5。

**誇りと競技** 集團の行動は常に集り居るといふ歡喜、つまり團結の叫びと誇りを抱かねば力ない

ものになり終る。青少年の教育にはこの結ばれた力と喜びを感じさせることが誠に大切な要素である。私たちは試みとして一つの集團競技を學年の特技として「誇と競技」と名付けてゐる。競技は騎馬戦と棒引きとを組合せたものを男子に、女子は搬球といふ簡單なものである。唯だ五つの班に三本の棒と三個の球といふ所が多少競技を複雑にするにすぎない。私たちはこゝでは規律と徹底的な敢闘を目標にしてゐる。號笛一聲、五つの魂は火を吐いてぶつかり合ふ。我が身を忘れた力と力との眞剣勝負である。そして如何に闘ひが激しからうと、勝利がもう一步で決定されようとする瞬間であつても止めの號笛がなつたら直ちに不動の姿勢を取る。今までの喊聲に代つて風さへ聞えぬ静かさになる。やがて班別に隊伍を組んで高らかに行進歌を歌ひながら引上げる。こゝにねらひの中心があるのだ。

青少年の誇と全身の力と熱とを出しあふよろこびに彼等はこれで培つてゆくのである。

### 3 體育の國防化

健康な體も、それを鍊磨する努力も全ては個人のものでなく、國家の力である事を私たちは

考へる。この簡單な眞理が今までは餘りに忘れ勝ちであつたのである。

體育の國防化は云ふまでもなく、國防力の鍛鍊である。しかし觀點を國防といふ事に置いて考へる事は決して時局がさうさせるだけでなく、民族國家が教へる實踐指標であると考へてゐる。又この場合から今日の體育競技を見るのでなかつたならば、國防競技と云はれるもの正しい認識も深めることは出来ないと思ふ。

各國は國防力強化の一つとして青少年の體育強化に萬全の策をほどこしてゐる。日本はやゝ立遅れた感がある。しかしおそくはない。體制はとゞのつた。私たちは正しい理解の下にあらゆる體育施設を検討し、實踐してゆかねばならない。

私たちのかゝる立場から行つてゐる事は今までの中にも見て戴けようと思ふ。行軍力の強化、耐暑耐寒強歩、競走、登攀競技、水泳、全てがこの立場から考へられてゐるのである。

たゞ期する所は「私たちの健康は、自分のためのものでなく、私たちの鍛鍊は國家の力の鍛鍊である。」と云ふ考への徹底にある。

「青少年の力は國家の力であり、青少年の健康は國家の原動力の榮養である。」といふのが私

たちのもつ健康教育のモットーでもある。

#### 4 養護の問題

**兒童體力の認識** 鍛錬的行事が多くなり、更にその集團化が叫ばれる様になると、一層我々は兒童の身體狀況を冷靜に觀察しなければならぬ。鍛錬と養護とが兩々相俟つて健康教育も完全なものとなるのである。兒童を過勞に墮し入れる様な過激なものも避けなければならぬ。又集團の場合にあつても個々の體力に適應する事が考慮されねばならぬ。均等とは同じものを課する事ではなく、その力に應じたものを課する事であるといふ簡單な定理を見逃してはならない。私たちはこのために健康調査票をもつてゐる。これによつて作業の強弱、運動の強弱を調節し、更に能力別の指導を行ふのである。

これと共に兒童自身も自分の體力を知り、その向上を目差さねばならない。この明瞭な反省の記録を體育手帳にさせる様にしてゐる。

體力テスト・體格検査・衛生検査・齒牙検査・結核検査・體重測定等は機械的に行はれるの

でなく、それによる研究と爾後の指導とが大切なわけである。

**衛生思想** 私たちは今述べた様な機會をはじめ、その他の保健思想の涵養の爲の行事等、あらゆる機會を通じて衛生・保健に関する正しい知識を啓培する事に努力してゐる。

教科を通じたり、或はその他の書物によつたり、又全體的に、個人的に衛生的な生活に眼をひらかさうとしてゐる。トラホーム患者の洗眼、肝油服用等は一つの義務である如くにまで考へさせて實施してゐる。又子供達を全校の衛生のための清掃に動員することも行はれてゐる。乾布摩擦は指導者の手を離れ、學校の掃除が重要な一日の課程であるやうに生活の中にとかされてゐる。

衛生部は、その意味で重要な任務と廣範圍の仕事をもつわけである。掲示板に彼等の手になる衛生に関する表や、圖解が季節に應じてみられる事が多い。新しい試みとして高等科の女子を數名宛交代で衛生室に常置して養護訓練をする事にした。治療、藥品等の知識や技術の體驗を通じて衛生思想を得せしめるのである。従つて彼等にとつて衛生室は單なる治療所でなくな

つた。この事は私たちにとつてうれしい發展である。

休養 厚生運動と云はれてゐる一つの主張は、新しい休養の意味を示してくれるものだと思つてゐる。休みといふことは怠惰を表し、休まない事が勤勉といふ事の代名詞であるかに思はれた時代もある。しかし之は明かに誤りである。休む意味が明瞭でなかつた事と、休み方がわるかつた事とから來た誤解である。

健康確保のための鍛錬が、激しければ激しいほど休養は必要である。私たちはこの頃激しい活動のためにくたくたになる事がある。この爲に心身を消耗させる様な事が青少年の上にあつては大變である。近頃この危険が忘れられかけてゐるのではないのだろうか。

兎も角、私たちの健康教育の一つの研究問題は、兒童の休養といふ事である。働きのあとの憩いと次の働きとの關係は、その憩ひの方法によつて變つてくる。休養は單なる休むことではなく且次の力の貯へでもある。そのためには、安靜な状態を與へることや、心や身のつかれを癒やす淨化作用のための方法が必要である。

作業の間や運動の間の憩ひのための綠蔭も必要である。涼風に汗を干しながら朗らかに語ることも楽しい。聲を合せて軽やかに歌ふのはむしろ黙りこんでゐるより休まる。「生氣を與へる正しい休養」私たちは常に子供たちの上に心をくばつてゐる。

「まどろ」はこの意味が生長し、積極化したものである。



## 九行軍

### 1 旅行・遠足の再検討

過去の遠足 ありのままに小學校時代の旅行や遠足について云へば、それは一種のあそびであった。せいぜい目的があつて見學と云ふにすぎなかつた。これはあまり極端な云ひ方かもしれない。旅行や遠足は斯くく目的の下に云々と反撥する人があるかもしれないが、それは言葉の上の事であつて事實の上の事でないと思つてゐる。私たちは過去の遠足や旅行に積極的な教育的意義を發見しようと努力しなかつた。不相應までに莫大な費用をもつて、一部分の子供たちが服装にのみ浮身をやつしての旅行があまり得る所なかつた事も多からう。併し今は諸種の國家事情がかかる事の不可能なる様になり來つた。反省し、再出發するによい機會である。私たちは積極的に旅行や遠足の新しい形と使命を發見しなければならない。

新しい要求 元來、旅行や遠足が見學といふ目的をもつ以外に「涉りゆく」といふ事に大きな意味をもつてゐるのであらうと思ふ。ドイツの「渡鳥」が彼の青少年運動の母胎となつたといふ事も考へあはせると、もつと「涉りゆく」即ち歩く過程を重じなければならない。私たちはこの「涉りゆく」生活の教育的實施を行軍と呼んでゐる。

歩く事の重要性を考へると共に、私たちはその目的地について深く考へなければならない。之はたゞ名所舊蹟であるといふにのみ制限されてはいけない。名所であつても、舊蹟であつても、青少年の氣持に相應しくないものは避けるがよい。もつと若者の氣持をわかす、祖先が國家のために營々として築いた、或は皇國の爲に血を流したと云ふ様な所とか、郷土や國土を眞實に理解し得る様な所を訪ねなければならない。今までは子供たちは凡そ無意味な名所を訪ねて少からぬ犠牲を拂つた事が多かつた。概略この二つにまとめられる要求を満たすやうな行軍を私たちは計畫實施してゐる。

### 2 新計畫

**行軍の意義** 今次事變で我々は戦闘に如何に行軍力が必要であるかを知つた。歩けといふ事が國民の生活の標語ともなつてゐる。行軍が戦闘力の強化といふ重要な意義を持つ事は言ふまでもない。行軍力は體力と意力の二つに考へられる。山野を跋涉するといふ事は、強い體力を要すると同時に又意力なくしては出来ない。それは疲労とか、寒暑とか、飢渴とかを克服して後に來るものの氣持のよさを理窟ではなしに肉體を通して學ぶわけであるからだ。

行軍はかゝる根本的な價値に附加された種々の意義を持つ。山野を廻つて青少年たちの國土の自然よりうけるものは大きい。山に野に色々の訓練をうけながら彼等は親しく國土の姿を見、そしてそれからうける日本人らしい熱情に胸をふくらます。或は又行軍の時、立よつて指導者から聞く祖先の仕事の跡も亦國家への感激の母胎である。

このやうに行軍は、集團のもつ力を發揮し、彼等とその仕事を知らせる。行軍中におこる色の状態に應じて自分に與へられた任務を全うしなければならぬことを教へる。こゝで彼等は種々の指導をうけ得ると共に、友人との間に強い友情の流れを自覺するのである。

**行軍の計畫性** かゝる行軍の意義を達しようとするならば、これに計畫性を持たさねばならぬ。この計畫には、人的な編成、行軍過程——主として訓練事項について——目的地、の三つが中心となる。編成をするには先づその行軍の目的・方法によつて編成の形態を考へなければならぬ。しかしどんな場合にも必要な事は、體力の程度をよく考慮し、その程度に應じた課程を與へねばならない。行軍の強弱、距離、方法も之を根底に決定される。次は能力に應じて本部班、傳令班、救護班等を組織する。これは彼等の氣持とびつたりすると見えて實際よろこぶし、勢一杯の奮闘をする。行軍過程は土地の状況、體力、氣候、その日の目的によつて決定される。そして訓練事項の組合せは彼等の疲労の程度を考慮して強弱程よきを得たい。例へば地形訓練、傳令訓練、記號訓練、讀圖訓練、救護訓練、自然觀察、藥草採集、臨地指導等が構成されるわけである。第三の目的地は學校を中心にして郷土の史蹟を目的とする場合もあらうし、地形指導、或は自然觀察上好適の地を計畫的にしかも教材と連絡して選擇決定せねばならない時であらう。しかもこれは一年或は全學年を通じて一定の配當——主として距離と目的地によつて決せられる。——をもつことも行軍がもたねばならぬ計畫性の一つである。

**鍛鍊主義** これ等は私たちの実施しようとする計畫の一端にすぎない。併し私たちはどんな場合にも鍛鍊第一といふ事を忘れない。過度にならない程度の強い鍛鍊は必要である。消極的であつたり、臆病であつたりする事は絶対にいけない。青少年の時期は今よりも、もつとく鍛へられねばならぬはずである。だから私たちは體力的に相當へこたれる様な距離を課したり、或程度の飢渴に耐へて、かつなほゆかねばならぬ場合も想定する。強歩耐熱耐寒行軍等を年中行事の一つに考へてゐるのはそれである。

鍛鍊第一の内容は次の記録で具體的に示したい。

### 3 或日の行軍

**編成發表** 行軍一週間前、學年告知板に行軍豫定が揭示される。

「六月六日 生駒・信貴山方面行軍

地形、見學地點の研究を豫めする事

本部班、傳令班、救護班、文化班の編成の爲、幹部は本日放課後、指導者室集合。

詳細は班長より通達す。

指導部」

放課後集合した幹部は地圖を中心に行程の概略について指導をうける。今度は往復の一部は汽車を利用するので乗車訓練はよほど班員に徹底しなければと考へる。本部班五名（隊長及旗手、傳令）、傳令班は六名、健脚な男子から選出、救護班五名、女子の任務である。文化班は目的及行軍途中の地名・地形・名所等、豫め必要とするものの研究にあたるのである。

出發時間及行程についての打合せが出来ると週報部の手で全員に印刷物を配布する。

**出發** 校庭に集合、編成の通り整列した後、指導者より點呼をうける。ことに班長、隊長は班員の人數、身體の状況について精密な認識が必要なのである。服装及び装具についての検査も一つの訓練として必ずやらねばならぬ事である。

校門を整然と出る。省線の驛までは勿論無言、堂々と市中行進の訓練をうける。物見遊山の様な今までの遠足気分は全然ない。ルツクサツクの中にはノート、救急藥品、日の丸辨當の外

不必要なものはいく見られない。たのもしい身軽さである。服装も體操服、華麗さにかはつて整美が私たちの誇りなのである。

乗車、班長の指揮で命令通り所定の個所から一列乗車。これは従前から徹底して訓練してゐる。「女、子供から先へ、席をゆづれ」は全てのものに浸みこんでゐるはずである。座席も定められた通りの順序ですわるのみで指導者は乗車命令以外一言も聲を出さなくてもすむ。

「下車準備」、「下車」、全てが號令一つで動いてゆく。彼等が社會の人となつた時、今の氣持でやつてくれれば整然たる世の中が出来ようと思はれる。

傳令訓練 下車後、行軍の態勢を整へる。第一に本部班、傳令班、それから本隊、最後は救護班、指導部は最後方をゆく事にする。本部班は地圖をもつて判断しながら目的地にゆかなければならない。最後部を進む指導部とどうしても連絡を取らねばならなくなる。傳令、通報の動作が繰返される。行軍力の持続のために指導部は小休止を——大體四十五分に十分——なさせる。指導部の方からも各班に傳令を走らす。その他、先行した斥候から岐路についての指示をうけに来る等々、暫くの間は傳令・通報の訓練である。

指導者は色々の想定の下に、彼等が的確な報告をし、通達をなす事、敏活に動作をするやうに注意しなければならない。復誦はこの場合のみでなく平素の生活にも大切な事である。不正確な言語は命令の誤達を招くから簡明なる言語への指導も行はれる。

彼等は疲労を覚えぬうちに多くの訓練をうけつゝ進軍するのである。

地形訓練 路が山地に入り地形がやゝ複雑になつた所で第二の訓練に入る。それは地形に関する指導である。土地の状態を理解し、これに對處する事は國防的見地から云つても青少年の指導事項と考へられる。且又國土に對する自覺の上から云つても極めて重要な教育である。

第一班を五百米先行さす。本隊が通過し得る様な道路を選択しながら行進するのである。ここはこの丘陵を乗切るべきか、迂回すべきか、彼等は色々の觀測をしながら先行しなければならぬ。山の高さ、川の状態等、略圖にされて指導部に報告される。

頂上の開豁地では四方を展望しながら文化班の説明を聞く。生きた地圖が足下から續いてゐるのである。彼等は生々として地形に關する學習をつゞけてゆく。指導者からは今までの地形

に對する行動に對して簡単な講評をする。そして文化班の説明の補ひをする。

交替されて第二班が先行する時は道路が狹隘になり、森林や草原の多い所にゆく。彼等は眞剣な讀圖をなして道を決定してゆく。謬れば二百人の迷惑になり、取かへしのつかぬ事を惹起するかもしれない。綿密なそして眞剣な讀圖練習がなされるのである。しかもこれは與へられたのではなしにさしせまられた必然の學習であり、教育でもある。

**指標訓練** 讀圖による誘導は成功し、無事に目的地につく。しかしこれまでの誘導になくてならないのは追跡記號の使用である。本隊から五百米も六百米も先行するのであるから適當な連絡の方法をとらねばならない。一々人を使つて連絡する事は不可能であるから、追跡記號を途上に記してそれで連絡する。主なものは大體定めておく。例へば方向指示には木の枝や、石塊の構成をもつてするとか、距離は枝の本數、小石の數で示すとかは共通であるが、その場に應じて臨機な處置の取られるのも良いのである。通るべき道は鮮明に足跡を附すとか、草を薙ぎ倒しておくとか、色々彼等は工夫してゆく。後續するものは一々それに注意しながらその適否

を批評してゆくわけである。

**臨地指導** 目的地では文化班を中心にその土地の事柄について研究する。展望のきく生駒山上では彼等の手で行はれる歴史的・文化的な研究事項が多い。

晝食の時は班別に草原に陣がつけられる。食後はそのまま、彼等の楽しいまど、の時である。合唱するもの、今までの感想發表、色々の研究、無爲に時はすごされない。これ等の指導は今までの遠足や旅行では更に等閑視されてゐた。激しい運動の後の休養のためにも、又清らかな情操の陶冶の上からも、我々は最も大切な時であると考へてゐる。運動や藝術の生活化はかうして身につけて行くのだと思つてゐる。

疲労したからと云つて、不規律の動作は許されない。歸途の乗車訓練は更に嚴正を要求される。體の弱いもの、故障のあるものに優先的な取扱ひがなされることは友情の常である。

**自轉車班** 自轉車訓練は特殊訓練の一つとして平素から規則的に實施してゐる。自轉車の清掃

から修理までさせて自轉車に對する理解を深め、愛車の觀念をつくるとともに、乗車は主として、集團の操車、又重量運搬の訓練である。この兩者を目標に指導をうけるのが自轉車班なのである。これは行軍や野營の時に大いに活動し、功績が多い。行軍時の自轉車班は主として傳令の仕事をし、救護班の補助をする。平坦な道路の調査、連絡等に愛車を驅つて活動する様子は、まるで敵前で活躍する斥候の様な張切りかたである。山地にかゝつて故障のおこつたものの荷物等を運搬するのは相當の難事であるが、彼等はむしろ喜んで汗を流すのである。

**救護班** 行軍が激しければ激しいほど疲れを云つて居られないのは自轉車班と救護班である。

訓練中の救護班の仕事は案外多い。靴ずれ、頭痛、軽度の日射病等に對して初歩の手當方法のみこまねばならない。藥品の用法、繻帶の使用法等も平素から指導しておかねばいけない。

しかし何よりも重要な事は、没我献身といふ事である。或行軍の時である。行軍方向が北方であつた爲一同は激しい日光を後頭部に受け、山脈の縦走中にあまり鍛へられてゐない一部のものの中から、三四名も軽度の日射病の様な病狀を現すものが出た。生憎、谷川もなく、里に

も遠く、學友の水筒も飲干された後であつたので指導者一同もその處置に困つた。しかし救護班員は任務を忘れなかつた。彼女等は今まで一滴の水も飲まず、自分等の水筒の水を救急用に持ちつけて来て居たのである。

彼女等は名譽章をうける充分な資格をもつた救護班員であつた。

## 十 野營生活

### 1 野營の意義

**綜合生活指導** 「全ての生活を共に」これは私たちが大地に足をふまへた教育行を、求めんためにあげた一つの目標である。衣食住を共にすることがどれほど大きな教育になるかといふ事は前の宿泊訓練で云つたが、野營は更にその意義を深め得るものである。

野營は、あらゆる生活を通じて魂と魂とが觸れあひ、磨かれあふ時であり、場である。抽象的な教授ではない、模式的な指導でもない。まる出しの生命が必然の叫びをあげる時なのである。しかも之等は單なる個人の問題でなく一つの集團の生命の問題であり、生活の問題である。もつと平盤なことばで言ふならば、生活を通じて實際的な指導が行はれ、皇民を鍊成し育成する時であり、場であるとも云ひ得るのである。

**國土教育** 私たちは又教育の根柢に國土を考へる。大地を離れた生活をなすものが如何に弱點を有するかは最近の都市への反省で明らかにされつゝある。私たちは青少年に國土に根ざした生活を指導しなければならぬ。野營はかゝる大きな意義をもつものと考へてゐる。

「朝早く私たちは池を一周して藥草を採集した。枯枝を踏んで白露を浴びて中頃まで來た時、遙か西岸には霧の向ふに、私達の天幕が並んで見えた。歩く道すがら藥草を集めて、漸く手を一杯にした。さるとりいばら、十薬、車前、蓬、薊の根、藪柑子、時に木の間に栗の實がなつてゐた。私達は生活圏に色々な草木の多いことに目をみはつて喜んだ。」

これは子供の感想文の一節を引いた一例にすぎない。しかし彼等は明瞭に國土に對して目を見張つてゐる。しかも豊かな生活圏に歡喜の聲をさへあげてゐる。この單純な、しかも具體的な入口から國土への正しい態度を培つてゆけるのが野營生活である。

**國防教育** 綜合生活指導は主として鍛鍊の形をとられる。それは人爲的のみにでなく、自然がさうさせる事が多い。彼等はこゝで有事の際の生活能力を得るのである。

雨の日の野營日誌の一節から彼等の氣持を覗いて見る。

「野營地は又、猛烈な雨に見舞はれました。一時は泣出したい様な氣持になりましたが、私達は、これは私達に下された試練だと思つて戦ひました。そして雨と戦つて敗れなかつた私たちの身體の強さを知りました。友達の氣持も始めて胸に浸みました。」

又、一天幕を建設する事の困難、そしてどんな困難も天幕内の者の協力で切り開き得ぬものゝ少ない事を知りました。

日本は今、空前の危局にあります。しかし國民が一致協力するならば、新しい大日本の建設を見る事が出来るのだと確信することが出来ました。この尊い精神を私達はこの雨の野營の體驗から學びとつたのです。」

形にはまつた様なこの云ひ振りが、この體驗を共にした私たちには、強い實感をもつて響いて来る。「新しい大日本の建設」に確信をもつた彼等の生活が期待されるのである。その外に彼等は諸々の軍事的な訓練もこの機會に極めて實戰的にうけ得るのである。

**開拓訓練** 國家の大陸政策に従つて青少年の滿蒙開拓義勇軍が我々への問題となつた。これに對して或ひは興亞教育と云ひ、或は開拓訓練としての方法が研究され實施されてゐる。しかしこれ等は主として形式的なものに流れ過ぎては居まいか。單なる模式的教育から拓士は生れない。土を拓き土に生きてゆく態度、それ自身をもつと培ふのが大切なのだと思はれる。この意味で我々は野營を一つの開拓訓練と考へる。

山野に自分等の村落を建設するために子供等は自ら鎌を手に雜草を刈り取らねばならない。自分の生命を維持する爲に、又村落の發展のために彼等はその周圍に生活のための材をもとめる。彼等は自からの知力を傾け、あらかぎりの力を出さねば自分等の生活を營むわけにはゆかないのである。そこに撓みなき勤勞の世界が現れる。自らそこに生活圏が決定され、村落の秩序も生れる。理窟でもない、演習でもない。常に彼等は自分等の共通の生命を、勤勞の生活を通して自覺してゐるのである。私たちはこの姿の中に彼等が拓士としての生長を見出すのである。



懐しき生活 衣食住の全てを共にするほど深い起縁は又とあるまい。事實子供たちは野營日記の中で聲を揃へてこの生活の懐しさを記してゐる。一つは自然への懐しさであり、一つは友達へのそれであり、又の一つは指導者への懐しさである。

或は「雨の天幕の中で友達のをはじめて知りました。」と云ひ、「夜中、先生が巡察される時の消燈の光が胸に浸みました。」、「激しい雨の中で猿又一つになつて排水作業をして下さる先生をみてじつとして居られませんでした。」と云ふ。朝霧の中で鳴いてゐた小鳥の聲も思ひ出の一つであり、「森の中で赤々と燃え出した篝火を圍んで、海ゆかばの歌をうたつた時、僕たちは第一線に居る兵隊さんの様な氣持になりました。」と語る。

強固なる團結も、指導者への隨順も、生活への力行も、皆この懐しさを通して現はれるのだとすれば、野營生活の意味も又重大である。

## 2 野營の實際

野營地の選定 本年も八月に入つて第三次の野營生活が實行された。第二次は五年以上全員が

交代で参加した大野營。第一次はその指導をすべき幹部が現地になれておくためのものであり、第三次は更に幹部が第二學期の活動にそなへて持たねばならない資格を獲得させるものとして、相當綜合的に彼等の能力が發揮出来る様な所を選定して行つたのである。

野營地の選定については、幹部四名をつれて實地檢證に出かけた。第一の候補地は電車で十分、下車してから四軒ほどある山の中の禪寺の附近であつた。其處は幽邃であり、清涼であつたが、青少年の野營地ではないと思へた。彼等にはもつと明快さが必要であり、太陽が要る。水といふ條件には恵まれてゐるが野營には禁物の濕氣が多く、狹隘である。四日間の生活であれば途中で購入しなければならぬ物資もある。連絡上之も不適當である。第一候補地は不合格であつた。

第二候補地は省線で十分、樺本といふ町で下車して東へ三軒ばかり白川池といふ貯水池附近である。私たちはそこへ出かけた。この池は山峽を堰止めて人工的につくつたので大きく水は深い。堤防上から奈良盆地が展望される。明かると上に大和としては珍しいほど大きな風致である。高燥である上に水は池水が十分使用出来る。學校から自轉車で連絡も可能である。指

導者の中でこゝに決定する心算が出来ると、引率した幹部に地形の概略について指導する。略圖も書留めさせておく。設営地は堤防上、悪天候の場合は堤防の下段、最悪の場合の移轉場所も決定して私たちは新しい計畫を描きながら引上げた。

**計畫と準備** 指導計畫を打合はせると同時に隊員を班別にする。男子を三班、女子を二班にし一班は八名といふ事にした。これによつて用具の準備がすゝめられる。一班には天幕二張及びその附屬品、ロープ三本、敷物六枚、十字鋏、圓鉋、鎌、鋸、木槌等作業用具各一、飯盒四ヶ個、蒸鍋一を調へる。個人用品は身廻りのもの以外に手旗、懐中電燈、號笛を用意さす。今度は全部を自分の力で輸送するのであるから持物は出来るだけ切つめる。しかしこの外にまだ食料品があるから、それにしても相當重い事は豫想される。

炊事計畫は前述の宿泊訓練の炊事計畫と同様に進められるのであるが、保存し易いものを主體に計畫しなければならない。南瓜、馬鈴薯、豆類、干物等がそれである。米は一食一合平均で各自指參。今度は試みに乾燥饅飴を使用してみる。衛生部は救急藥品を準備する。主なもの

は、ヨードチンキ、アンモニヤ水、メンソレータム、征露丸、クレオソート、下劑、アスピリン等、今までの經驗から割出して量を定めて救急箱に詰込む。

この二つの指導と活動の外に現地へゆくまでに地形訓練をしておく。地圖や砂箱における砂上の實踐的設営指導である。模型の天幕を彼等は圖上に配置しながら野營地の希望を描く。

**村落形成** 炎熱の道を三軒、重い荷物を背にしながら白川池に到着する。山を巡つた水は深く壮大で、今までの苦しみを補つてなほ餘りある。子供等の胸は若い喜びで一ぱいに充される。

この池を中心に我々の生活圏が決定されるのである。私たちは野營地につくと先づ我々の生活してゆく範圍を定める。その中のあらゆるものの恵みによつて生活するのである。子供たちは開所式をすまずと周圍の探索に出かける。設営地は、燃料は、飲料水は、彼等は新天地に來つた拓士の様な眞剣な氣持なのである。

設営する場所は豫め研究しておいた様に堤防上が最も適當であると云ふ事になる。先づ住居の建設へかゝる。第一に村を通ずる本道をつくる。夜間の危険を慮つて池と反対側に工築され

る。村はやはり本道によつて秩序よくつくられねばならない。

大體見當がつきかけると班毎に各々の城域が定められる。幕舎工築をやるもの、炊爨壕をほるもの、周邊の作業をするものなど。各人が各人の全力をあげて楽しく村の完成へと急ぐ。

幕舎は風向と交通の二つから出入口と方向をきめねばならない。傾斜のある様な所は不都合である。これ等はもう班長の指揮だけで大丈夫である。雨にそなへて排水溝を掘るもの、舎内に敷く草を刈取つてくるもの。汗のうちに八人の者の協力が着々と實を結んでゆく。彼等はいく回数の野營に相當しつかりした判断を下し、處置をする能力をもち合はせて來たのである。

自分の住居がやゝ出來上つた頃に村の公共所の建設にかゝる。風通りのよい、小高い場所を選んで配給所と食料倉庫が建てられる。こゝは涼しいこと、虫のあまりつかぬ事等が必須條件である。貯藏用の穴倉を掘り出した子供も居る。崖下の固い粘土を一米ばかり掘下げて草をしけば立派な冷蔵庫になるといふ事などは彼等が自然から學びとつた知識である。

いよ／＼建設は細部に涉つて進められてゆく。便所工築班が適地をさがして草をわけてゐる。餘り人目につかぬ事、道より鍵の手に曲つた所、風上でない事などがその場所の條件であ

る。立派なものが出る。「使用中」「空」の記號が枝を使つてつくられる。芝で編まれた袖垣に早咲きの萩がまじつてゐるのも面白い忙中の餘裕である。

一番苦心し甲斐のあるのは炊事場の工築である。壕は堤防の斜面を直角に切りこんでつくられた。段々懶巧になつた巧妙な作業である。かうすれば堤防の下から吹上げる風が火のまはりをよくするのである。或班は壕の下に風洞をつけた。彼等はいく回野營の科學者の資格さへ得て來てゐるのである。それを中心に食器臺、用具臺がつくられる。自然の草木の造型性を彼等は全力をあげて生かして構成してゆく。タイル張りの臺所よりも簡潔であり、鍋や飯盒をかけたある木にわざ／＼二三本の葉のついた枝を残してあるのも趣が深い。無駄なく、しかも惜しみなく自然の命の中に生活してゆく彼等の村が、かうして形成されてゆくのである。

**社會生活** 村の概略が出來ると彼等は食べる事にかゝらねばならない。「食」は野營での大きな仕事である。相當修練されたものは左までに感じないが、まだ初歩のものは一日の殆どの勞力と時間を食事作業にかけなければならぬ。先づ彼等は燃料をさがさねばならない。燃料にな

る枯木のある所、芒等の禾本科草木のある所など眞剣に踏査する。萩や黄楊は生木でもよく燃えるなどいふ事は子供等の発見である。蒐集に際しては自然に對する道徳をわすれない様にしなればならない。自然より奪ふのではなく恵みをうけるのである。蒐集から貯藏へ、乾燥へ、常に備へある體制が忘れられてはならない。

燃料が堆積された頃、食料の配給の角笛が鳴る。食べ物は我々にとつて極めて重要であるはずなのに反省が足りない事が多い。殊に子供に於ては甚しい。野營生活はこれ等に對する確かな考へを抱かしてくれる。食料は原則として携帯しただけで賄はれなければならない。人力には制限があるから分量も定つてくる。こゝで一切の無駄や浪費は許されなくなる。貯藏や榮養方面は充分考慮されるとしても、品種には制限がある。好き嫌ひは一切ゆるされなくなる。どんな嫌ひなものでも彼等は自分の勞力で運び調理したと思へば、代へ難い美味である。

一切の無駄を排ぶき、公平を期するために配給に切符制を用ひてゐる。子供たちの喜びさうな考案をして、その中にその品物の處理法などを書入れた切符は、案外彼等の歡迎する所となつた。この事實は計畫經濟下の國民生活の縮圖を思はしめ、興味をもちながら社會の機構の運営

の姿を學んでゆく、切符に對する不自由さなど考へるべくもない。

調理は前述した宿泊訓練の時と大した變りはない。しかし廢物をつくらぬ事、塵埃はつくられた穴へ必ず入れることなどが殊に注意されねばならぬことである。

**鍊成生活** 詳らかに記録する事は許されない。これは彼等の野營地の素描にすぎない。

彼等は小鳥と同じで太陽と共に生活してゐる。朝五時の起床はむしろ遅過ぎる位である。

朝露をふんで朝の禮拜をやる。池面にまぶしく朝の光が輝く。清々しい胸に皇國への誓を刻みこむ。朝の食前の運動は行軍である。男は二軒ばかりの道を虚空藏山、女子は池を一周して藥草の採集をする。かうした後には食べる朝食は云ひ知れぬ味である。

七時。村落の建設作業、炊事場への道が出来上る。飲料水汲場の共同作業。

九時。登攀訓練、十米ばかりの崖を繩をつたつて登るのである。燃料蒐集にゆく一つの通路として利用もされることになる。大膽と細心、眞剣な練習である。

十時。水泳、歡聲と飛沫が上る。最も楽しい日課の一つ。初日は平泳と飛込とが指導され

る。次いで救急法の指導。水泳の後であるから子供等には眞實にひびく。

一時。午睡、敷布をもつて松林の木蔭で睡りをとる。

三時。信號練習、以前から手旗信號は全員に指導してゐる。之は單なる信號のみでなく、視覚の修練上大きな効果がある事を私たちは重要視してゐる。一朝有事の際にも彼等の手で受持てる仕事でもある。池の彼岸の松林の中から赤白の信號が活潑にゆれてみえる。

四時。偽装について指導。天幕に簡単な偽装をさして、迷彩の話へ發展する。小高い丘の上で彼等は新しい知識へ懸命に耳を傾ける。

五時。水泳。

六時。涼風が池面をふく頃に夕食を終へる。

私たちはかうした野營の一日を思ひかへし、生活即訓練、生活即學習の原理を見出す。ともすれば抽象的に流れ様とするものを野營はしつかり引止めてくれるのである。鍊成の生活、これがびつたりあてはまるのが野營生活の呼び名ではあるまいか。

### 夜間の指導

私たちは主として野營は満月の頃を選ぶ。これの方が何かにつけて都合がよい。

夕食を終へて暫く自由な時間がある。夕靄も黒ずんで月が上る頃である。

夜の指導は電燈によるモールス信號、一・二……○までの數字を教へられる。三十分ばかりで完全に物にしてしまふあたり指導者も驚いてしまふ。

それから月光の下に篝火をたいて「まどろ」にうつる。夜が彼等の氣持を整理し一點の火にあつめさす。話はまづくても一つ一つが胸に響いてゆく。憩ひと、そして正しい精神訓練になくてならない機會である。——まどろについては後に記したい。——

一日の激しい働きが癒され、淨化される。清らかな明日への希望が湧く頃に夕の禮拜が行はれる。山は靜寂である。子供たちまで神秘的姿になりおほせる。

私の表現は野營の姿を表し得てゐない所が多い。この生活はもつと大きなものである。私達はこれを魂と魂の觸合ふ教育の場と見、生命の必然から振ひ上る修練の場とみてゐる。そして子供達が全てを自らが働く事によつてのみ得るといふ尊いものを見出してゐるのである。

## 十一 非常訓練

### 1 銃後の義勇軍

青少年の力 博多の海岸に元軍を阻止して舉國日本の意氣を示した石壘を詳細に見てゆくと、石垣に相應しくない小石のあるのに氣がつくといふ。私はこれを見て大人の群にまちつて石を運ぶ少年達の姿を想像するのである。そして今の時代の少年達にこの小石にふくまれた誠心を知らしたい欲望に驅られる。少年たちのなした仕事は取るに足らなかつたにしろ、その姿が大人に働きかけた力は驚くほど偉大であつたに相異なる。この昔語りは現實の我々の世の姿でなければならぬと思つてゐる。私たちは、私たちの子供が持つ力を無視してはならないのである。拙い慰問畫が勇士を鼓吹した話は餘りに多い。奉仕する子供たちに叱咤された大人は絶無と云へ様か。町に見られる子供たちの時局のポスターがどれほど大人を反省さすかしのれないのである。子供たちは今大元國を防ぐ小石にも似たものを運んでゐる。

**新しい自覺** 我々指導者は子供と共に寢食をして事新しく、子供たちを愛する事とはどんな事だらうかと考へさゝれてゐる。最悪の事態を考へた時、私たちは子供たちを安全な所に庇ふ事をのみ考へる。しかしもつと大きな愛情から考へた時、彼等をのみ安穩に生活さす事は許されないはずである。と云ふよりむしろこんな機會にのみ眞實な教育が出来るのではないかといふ考へが廣がつて來るからである。博多の濱で小石を運んだ少年達が大人になつてどんな逞しい氣持で生活したかが想像されるのである。しかし子供達にはこんな勝手な考へより先に組織ある生活が大きな力を無意識的に發揮してゐる。これを自覺させるのである。指導者も——勿論親達も——この「聚る力」の自覺こそ非常時訓練を基礎づける鍵である。

非常訓練は國民學校に於ては單なる即應の構へに終つてはならない。即應の構へをすることによつて次の時代の逞しさを打鍛へる爲のものでなければならぬ。

**組織的體制** 永遠の理想達成の爲には思ひつきや斷片的な訓練では不可能である。時局即應の

構へと貫徹せる指導觀をもつた組織ある體制をもたねばならない。私たちは高等科生を主體として學校防護團を組織した。これ等ばかりる組織によつて少國民を鍊成することをねらつたもので、非常訓練のみに終らず平素の生活にも生きてくる所をねらつた。次はその組織である。



## 2 訓練の實際

**非常招集** 平素から放課後下校の際は學年が地域別に並んで歸つてゐる。土曜日には少年團の

分團別に全校一齊に下校する。非常招集はこれを逆にやられるわけである。分團長に一つの連絡系統が定めてあり、これの一人に命令を傳達すれば全分團に通じられ、分團では分團長から隊長へ、更に班長から班員へ傳達され、分團の集合場所に集つて學校へ來るのである。この方法で發令から最も短い所で七分、全員集合終るのが五十分位である。更に急を要する時には自轉車傳令が活躍して傳達時間の短縮をはかる事になつてゐる。各隊(即ち學級)でも各人の傳達系統を定めてあるから學級別にも招集される。この場合は殆ど三十分以内に集合し終つてゐる。

**基礎的訓練** 眞剣な訓練をやる爲には基礎的な訓練を豫めしておく事が肝要である。でないとお祭り騒ぎになつたり、不安な氣持を驅立てたり思ひもならぬ危険が伴ふ。

主なものは、警備區域へ靜肅、敏速につく事、登攀技術の指導、手旗の練達、自轉車の訓練、救急法、物品持出し、防火練習等である。これ等は一一つ切りはなして、綿密に指導しておく事が大切であり、他の場合とも連關する事ばかりである。私たちはこれ等の訓練を訓練計畫の中に入れて何回も繰返し指導する事にしてゐる。

これと平行して防護團組織の中にある様に教導班といふものを定めた。これは平素から防空上の知識を涵養する様な資料、防火その他に關する資料を掲示したり、印刷したりして全員の防護思想の培養に努めるのである。無駄な恐怖や、無暴な行爲はこれによつても除かれるわけである。又組織と知識と活動が一體となつて初めて社會へ働きかけて力となるのだと思つてゐる。

**綜合訓練** 非常を知らせる合圖が防護團本部から發せられる。傳令班員は直ちに各所屬部署につき、自轉車傳令は所定の位置に待機する。護衛班は總務の指揮下に入つて奉安殿、神殿の警衛につく。警備班の一つは監視哨となつて二ヶ所の展望臺へつき、一つは通路警備の部署につく、防火班はポンプ、消火栓、バケツ、砂箱等の準備を終へて待機、これ等が短時間に整然と行はれる。續いて避難命令が下る。全校は定められた通路から避難を開始、避難班は低學年係、高學年係の二班に別れて指導部の手足となつて避難場所へ誘導する。警備班は通路の混雜を防止し、危険と動搖のない様に協力する。その頃から運搬班の活動も開始される。平素の訓練が

役立つて重要物品は無事搬出が終る。避難所から「ヒナンヲハリ」の手旗信號が監視哨へ送られる。それ以前に避難後の監視に警備班員が校舎内外を見まはる。

「校庭の南方に焼夷彈落下」の通報に防火班は直ちに出勤する。ポンプ、消火栓から水が走る。屋根には梯子がかけられ南道路を流れる川からバケツの路がつく。防火班の敢闘に無事消火成功。一方では救急班が指導部の指揮で擔架訓練をうけてゐる。三角布の使用も大部板にいつて來た。

「エンシフ ヲハリ」監視哨より避難所へ信號が送られる。この間銃後の義勇軍は我を忘れて奮闘する。「演習は成功であつた。」といふ講評に彼等はほつと一息する。これがこのままで終らぬように、全てがこの氣魄で、しかも没我、一つの指揮に従ひながら秩序ある生活を平常化するようといふのは、これからの私たち指導者の方向と勤めである。



## 十二 集團作業

### 1 據るべき態度

勤勞青少年 私らは子供と共に今までに何回となく奉仕作業と云はれるものに参加した。そして何時も何かしら物足らなさを感じるのであつた。それは決して仕事そのものが不適當なものであつたからと云ふのではない。これに参加せしめ、且指導する態度が極めて不明瞭であつたからである。少くとも國民學校の兒童に課する勤勞奉仕作業と云ふものは、その場限りの賦役的のものであつてはならない。はつきりした指導觀を立て、組織的・教育的に行はれなければならぬ。最近此等の反省が勤勞奉仕の組織化をいふ現象を生んで來たのではないかと思ふ。私たちはこの場合、第一に汗する子供の姿に尊さを見出す。汗を流して働くことを厭はぬ人間、つまり勤勞を愛好する人間が行動日本の陣頭に立つ資格を有するのである。私たちは汗する子供らを「ヨイコドモ」として認めてゆかねばならない。そしてこの汗を無駄にさせない様

に、つまり、汗を流してなした仕事、そして力が明瞭に皇國の力になつてゐるといふ事を自覺させる様にしたければならないのだ。

こんな考へから私たちは、子供に勤勞の習慣と、よろこびと、そして誇とを抱かすべき方法を作業の上にとつてゐるのである。

**集團の意義** 一の百倍は百であるといふ計算は人の動きの場合には當嵌らぬようである。百の結合の力が二百の結合を感じさせ、三百を思はせ、時には無限の力を感じさせることがある。勤勞作業が集團的に行はれるのはかゝる點を重視したのである。しかしこれはその力による仕事の多寡を考へるのではなしに、集團の力を自覺させる爲でなければならぬ。

子供たちは集團的に作業することによつて自分がどんな位置に居り、そしてどんな働きをなすべきものかを知るものである。一人一人が思ひ思ひに働くのでなしに、一つの目的にむかつて自分の全力をあげることによつて全體の力が發揮出來、そこに又自分の正しい在り方を發見することが出来るのである。

青少年の集團が國家的に極めて重要な建設や生産に大きな力を示しつつある最近の狀況は、これ等の好個な實例とも云へる。

**土の教育** この種の作業が土を對稱とするのを原則としたい。何故ならば彼等はいかにすることによつて國土を自覺する事が出来るからである。もとく日本人は古代から國土は我々と血の繼りをもつものと考へてゐた。國生みの神話は明瞭にそれを物語つてゐるのである。しかし最近の我々はこの崇高な、そして強固な團體の根柢である神話の意味をわすれつゝあつたのである。農民さへ土から離れようとした。都會人に於ておやである。日本文化は大地と遊離し脆弱化しようとした。私たちは青少年にこの危険を侵さしてはならないのである。

私たちの子供は主として商工業を家業とするものゝ子弟である。土を忘れる危険は殊に大きい。前にも時折りふれて來たように、國土への教育の必要を最も痛感する子供達である。従つて土を對稱とする集團作業を、國土に生きる自覺を深める行であると考へてゐる。

土は我々に國土の恵みを教へる。絶えることなき勤勞の必要を教へる。そして又、黙するこ

と、偽りなきことを教へる。子供等は大地に抱かれて行することによつて隨順し、且力行し得る。そして常に明るくあり得る皇國民としての資格を獲得するのである。

## 2 勤勞奉仕作業

**農家奉仕** もう何回目かの仕事なので子供たちは躊躇しなかつた。水を張られた早苗の田に素足のまゝでどんくゝ入つて行つた。螟虫驅除の爲の奉仕作業も相當廣い田圃で種はれた。

強い日ざしに汗は彼等の體操着をすっかり濡してゐる。足には何匹となく蛭が吸着いてゐる。彼等は唯熱心に稻の葉をさぐつてゆく。珍らしい仕事といふ感じも手傳ふのであらう。——私はこの珍しさについて考へてみた。當然我々の問題であつたはづの農業が單に農民の仕事にすぎないと考へる時代がつゞいた。この迷妄から覺醒させるために、天が下された公案が食糧不足といふことである。我々はこれによつて再び農業によるべく大地へ引戻されたわけである。最も大切な——子供たちのもつ珍しい仕事を當然な仕事に轉換させるのが教育の一つでもあるのだ。足にすひついた蛭に大騒ぎをしなくなつた。それだけ彼等は逞しくなつてゐるのだ。更に

子供たちはもつと大きな收穫をさへなしてゐる。

「頭を照りつける暑さと、同じ様な仕事のつゞきに私は思はず腰を伸ばしてしまひました。ふと見ると私の五米ばかり前を百姓のおぢさんが黙つてゆつくりと草取りをつゞけて居られました。六十ばかりなのにとても強さうに見えました。そしてそのおぢさんは田圃の土から生えて居られるのではないのかと思へる様に見えました。」

おぢさんは顔もあげないでどこまでも仕事をつゞけてゆかれます。私は急にぼんやり立つて見てゐるのがはづかしくなりました。」

これはKといふ女の子の作文の一節を抜いたのであるが、彼女は田の土から生えた様な農民の姿を發見してゐる。そして表現は得てゐないが、その姿から力強い生の在り方を見出してゐるのである。「私は急にはづかしくなりました。」と素直に表明してゐる。これが彼等の土から得た大きな體驗であると私は斷ずる。

**道路修築** 生活の秩序を整へる爲には整つた道路が必要である。しかし道路ほど手入のゆきと

どかぬものはない、草の茂つた道、小橋の朽ちた道、周囲の壞れた道などが月餘そのままにされてゐることが多い。子供たちは協力してその修築に乗り出す。

道路清掃などは常に行はれてよい仕事である。油照りの道に子供たちが石を運び、十字鍬を振つてゐる姿は、仕事以上に道路愛護の念を廣めることになると思ふ。

「學校附近の道路は常に私たちの手で整然と」この氣持が子供たち心の中を常に占有して實行を導いてゐる。

**運動場建設** 體育の徹底はその根柢にその道場に對する態度の教育がなければならぬ。私たちは運動場を道場と考へ、その淨化と建設は自分等の力でといふ決心でやつてゐる。

最近になつてからでも鐵棒の修理をやつた。砂場の砂を除き固い土を掘りおこし、半身を湧き出す地下水の中に浸して排水作業を初春の作業として實行して來た。相當の難業であつた。指導者と子供と一丸になつてやりとげた。毎日放課後の運動場で頑張つた甲斐あつて僕等の手になる鐵棒が出來上つた時の歡喜は例へやうがない。次は砂場の補修にかゝつた。今度は砂は

購入せずに一軒半ばかりある川原から鍛錬を兼ねて全部運ぼうといふ計畫が出来た。バケツ一杯の砂は相當重いが全校一致してこれも僅かの日數でやりとげた。自分の手で建設されてゆくのであるから、今までの様な不注意な行爲は減つてくる。走路の區切と、整列の目印の煉瓦埋めも、綠陰をつくるための作業も續いてやつた。電燈會社から電柱の古を拂下げてもらつて車で引いて來た。平均臺にもなり、長椅子にもなるものを運動場の周りにおいた。武道の撃突臺、相撲場、皆子供等の手になつたものである。この頃は指導者と子供の協力で運動用具の修理まで行はれるやうになつてゐる。

汗と誠の奉仕は、私たちの運動場を建設してゆくのである。

### 3 農耕作業

**農園經營** 今年の冬に始めて學校の農園が出来た。大して廣くないが、運動場の西についた土地である。作業の都合上、畑にする計畫なのであるが排水が悪くてそのまゝでは出来ない。第一の工事として排水作業にかゝつた。四周に溝をほるのであるが、水は切る様に冷めたかつ

た。泣き出した数日の作業であつた。繩張をして區劃の割當をして排水にかゝる。作業用具が僅かしかないので子供たちは自家用のものをひつさげて來る。やつと排水の出來た所に凍雨がふる。溝の傾斜が悪くて所々に又水溜が出来る。北風に吹かれ、凍る水に足を浸して暫くは濕地と根くらべをした。

子供たちの元氣が工事を進捗さして、やがて畦が出來、農場の體裁が出來上る。肥料溜もつくくる。

子供たちの新しいよろこびと希望とをもつた道場が又一つ建設されたのである。

**共同管理** 出來上つた農園は大きく五つに區切つて一班づゝ責任場所を定めた。植付期をまつて播種、植付を終る。子供たちにはこれも始めての仕事である。學習園でやつて居たのとは大分勝手が異つてゐる。萬事、研究的にやらせることにした。参考書も與へ、經營日記も各班で付けさせることにした。

全てが驚異である。蒔いた種から芽の出る事さへ驚きの様である。自分等の勤勞が如實に結

果を現してくれる。彼等は豫想外にこの仕事に没頭した。

面積の関係もあつて、無用な競争を避けるため、集團農業の意義を考へさすために共同管理の形をとることにし、子供たちには、僅かなこの土地の営みといへども國家への御奉公としての営みでなければならぬ。寸土といへども空しくすることも私心をもつて見る事も出来ないと話した。

子供等は育つてゆく農場を見ながら私たちの話をなる程と思つてくれたらしい。

夏期の休暇中も彼等の計畫によつて農場全體が平常と變りなく営まれてゐた。

**生産部** 收穫があるころ、子供の中に生産部をつくつてやつた。彼等の手で收穫物を處理さすのである。各班から生産部に納品される。計量、記帳された後當番によつて販賣される。彼等は常に市價を研究しておく事と販賣の公平化に心を配らねばならない。野菜は市によろこばれ瞬く間にうりつくされる。生産部の貯金通帳にはもう大部預金されたはずである。

變つた彼等の販賣と云へば、宿泊訓練のための購入と、土曜日に開かれる母親學校のお客と

であらう。

#### 4 作業の日

**精神的意義** 興亞奉仕日と第一土曜日の午後とは私たちの子供は「作業の日」と稱してゐる。取立て、變つた事をするわけではないが、一つ打こんで働く時間をもつてみようといふわけから定められたのである。勿論子供からの動議による。

この日の作業は奉公精神を主體とするわけである。よろこんで我を捨て切つて働く氣持の良さを味ひたいのである。「どんな仕事でも致します。」「どんな仕事でも決して輕蔑いたしません。」といふことばを我々は近代人の金言と心得、その實行の機會であるとしてゐる。この事は今の時世が子供たちに教へた素晴らしい教訓でもあると思つてゐるからである。

事實、子供たちは、どんな仕事でもよろこんで働くようになってゐる。

**作業・訓練・奉仕** こんなわけであるから仕事も學校の仕事とか、町の仕事とかが多い。そし

てことに平常手のつけられてゐない場所や仕事であることが多い。而し喜んで勵みあつてゐる。子供達にも一燈園の方々が行じられてゐる六萬行願の行爲がうなづかれて行くやうに思へる。

「どんな仕事でも致します。どんな仕事でも輕蔑をしません。」この心から大溝の淨化もやる、土堤の草刈もやる。倉庫の中を皆出して大整理もやりとげる。運動場の修築も、校舎校具の修理もよろこんでやる。

皆にもよろこばれるし、やつてゐるものだつて氣持のよい數時間だと云へるのである。

我々には、「作業の日」は精神訓練の日でもあるのだ。

## 十三 田園實習

### 1 着手した動機

**田園と教育** 田畑のつゞく野の中に立つとき言ひしれない安らかな氣持になるものである。この安らかさは單なる文人の鑑賞とのみ言ひ切るべきものでなく、農全體に流れる田園の精なるものではなからうか。心篤き生活と云へば農民の生活であり、都市の生活はそれと對比して云はれたものである。人間の生活がこの農の生活から生れたのであり、農に歸へつて心の安らかさを得ることは、經濟史を読みかへすまでもなく明らかた事である。私たちが「土へ」といふ言葉で今まで再三述べて來たのは農の生活を子供たちの中に芽ばえさしたい念願をいつたものである。

よき我々の祖先はよき農の民であつた。我々の血の中には田園から教へられた勤勞の生活、土への歸依の生活、偽る事のゆるされない生活の流れをひいてゐるはずである。過去の激しい

外形の變遷はともすればこの心底に流れてゐる大地にねざした生活愛の心を見失はせようとしたのである。しかし戦争は我々の血を認識させた。そして血の中に色濃い農の祖先の傳統を目覺めさせた感が深い。

**食糧増産問題** 更に時代は我々を覺醒せしめる。食糧増産といふ社會的問題がそれなのである。我々はこの問題に直面して農の生活へ新しい眼を開かざるを得なくなつた。

我等はこの機會に、又とない切實な機會に適切な鍛へ方をしなくてはならない。無闇な切迫感を與へるのでなく、この局面を積極的に展開さしてゆかねばならないのである。要は農の生活への還元にある。微力とは云へ、増産陣の一翼として勤勞させながら、將來への生活の態度を鍊成するのである。これには矢張農家の生活を體驗さす事が大切である。學校に於ける模式的雛型の農耕ではあまりにも足りないものが多いからである。

田園實習に着手した動機はこゝにある。

## 2 農學校との連絡

**組織的指導** 田園生活をさせるためには農家で起居を共にして指導をうけるのが本當である。しかし實際の問題としてそこまで理會のある委託先を見出す事も困難であるし、學校園から直ちにこゝに飛躍させる事は効果よりも弊害の方が多様に思はれた。それに近い方法として近傍の指導性をもつ農家で實習させてもらふ方法が考へられるが、それまでに農業として組織的な指導が欲しい様に思はれた。色々研究の結果、最も近い所にある農學校で實習させてもらふ事に決定した。農學校の所在地は四軒許りのへだたりで汽車の便もある。徒歩でもさして困難を感じない。その上幸ひな事に學校に舊師がおられたので連絡はうまくとれた。こゝなら田園としての色彩もつよく農業の組織も立派である。殊に最近開拓された農業道場も山際にもつて居られる。萬事にこちらの思ふ通りなのである。

休日利用を本體に向かふの學校の方々にも御迷惑をねがつて、農學校を中心に田園の生活に入つたのである。廣々した作業場も今までに經驗した事のない緊張をおぼえさす。私たちの計

畫はこんなにして一步前進したのである。

各方面の體驗　こゝで都合のよい事は各方面の體驗が出来ることである。作物の種類も多いし作業も種々ある。仕事の分量も多い。方法も色々ある。今まで使用した事もない用具も使用出来る。それに養禽、養畜の作業の出来ることは彼等にとつて楽しい體驗である。殊に女子は他の何物よりもこの仕事によるこんで従事する様になつた。

作物もさうであるが、これ等の動物達は心をこめた世話に愛情をもつて答へてくれる。はじめは少々恐しがつたり、穢く感じたりしてゐたが、今は懐しい友達である。かうして子供たちの身體には濃やかに田園の香がしみこんで來たのである。

### 3 農家實習

實施計畫　集團的な農家實習は勤勞奉仕として數回にわたつて實施されてゐる。これももつと計画的に出来るだけ強化して實施してゆきたいのであるが、私たちの願ふ田園實習の本筋は農

家にある　農家の生活を體驗さしたのである。農學校の實習は更に發展しなければならぬ。しかし農家の實習はあらゆる點に於て困難な事が多い。第一に理解ある農家を選ぶこと。第二に指導的態度で兒童に對してもらへる農家の少ないこと。第三に實習することによつて生産能率の低下を招く様な心配が今の訓練狀況では尙氣に掛る。殊に第三の問題は成功不成功の鍵でもあるように考へられる。農學校を相談相手に對稱農家の研究を始めた。二三の適當な農家が候補にあげられ、いよく實施にかゝらうとしてゐるが、まだ報告する様な仕事があるまでに到つてはゐない。是非やらねばならぬ事として發展させてゆきたいと思つてゐる。

兒童は大體班別に——農家の作業の多少によつて増減せねばならぬが——一家を選定し、なるべくは継続的に従事さしてゆく方法をとりたいと考へてゐる。

實習の内容　實習する事項はその家の生活の機構に全然従はせてゆくのである。だから實習の日は朝早くから子供たちは自轉車を驅つて出かけなければならない。その家の主人は云ふまでもなく指導者と同格である。指導や命令には絶対に従はねばならない。雞小屋の掃除から牛の



世話、農具の手入れも實習の一つである。女子は大きな釜で炊事もやり、汗の野良着の洗濯もする。こんなにして農家の隅々にまでしみこんでゐる土の香をかぐ事によつて、土と勤勞を愛する事によつてのみ生活し得る尊い體驗を得るわけである。

**生産と教育** 横途のようではあるが、我等指導者の土への教育に對する一つの考へを述べたい。

従來、教育は生産とは正反對の位置にあるものとされてゐた。生産の技術を修練する實業學校に於てさへさうであつた。しかし現在の國家の状態はこんな非生産的な状態をゆるさない。學校報國隊は生産へ前進せんとしてゐる。もし教育が生産と相容れないものであつたならば、將來の教育は矛盾せる二筋途をゆかなければならないのである。生産が個人収益の手段であつた場合にこの二者の接近には危険があつた。しかし生産はかゝる意味から完全に離脱した現在である。農が大きな教育的意義をもつてゐた事によつて明かな様に、生産への参加も明かに一つの教育の方法であらねばならない。

## 十四 工場實習

### 1 工業科の使命

**學校の設備** 高等科に於ける實業科は極めて重要な意義をもつ事は論を俟たない。生活態度の根柢に農の生活を考へた私たちは、更に翻つて時代の要求する工業への教育も考へなければならぬ。國民學校令に定められた如く工業科の目的とする所は明瞭であるが、これの實踐指導には實習を重く見る事に當然であらうと考へられる。勿論教科書による系統的指導は必要ではあるが、これに止つては大半の價値を失ふものである。實習によつて皇民を鍊成するには、その鍊成の場に相應しい環境と設備が必要である。しかし學校の工作室の設備は此れを満足させる事は到底出来ない。こゝに新しい工業科の使命を達するための實踐構想の必要が迫られてゐるのである。「無いから行はない。」と云ふ事は我々の取るべき態度ではないし、又之をゆるす時でもない。私たちは教授上の注意の中に見られる

「實習ヲ重ンジカメテ實地ノ見學ヲナサシメ適切ナル指導ヲナスベシ。」  
 によつて教室の擴大を試みた。

**教室の擴大** 教室は工作室のみを意味するものではない。擴大は勿論増築でも何でもないのである。私たちがもつてゐる生産と教育の考へ方によつて生きた工業教育の場を外に求めたのである。工作室は専ら系統的・科學的な指導大系をもつ教育を擔當し、教室外の教室はその實際活動の教育を擔當する様にと考へた。この要求を充すために單なる見學や、その場限りの實習ではなく、繼續した指導が可能である様な方法を考へたのである。

教室の擴大は一見簡單な様ではあるが中々困難を伴ふ事が多かつた。農家以上に工場は營利を目的とする傾向がいまだに強いからである。しかし當校の子供たちの將來はこの途にかゝつてゐる者が多いのである。困難な點はこの營利にからまつて起つて來るのである。機械による危険もある。従業する人々に及ぼす影響を第一に考慮に入れなければならない。生産能率の低下は農業より以上直接的である。誤れば正しい意圖をもつてやつた事がかへつて業者の迷惑に

なつたり、下手な指導からつまらない印象を子供に與へて子供の將來を誤らす事にもなる。従つて自然深重にならざるを得なくなり、農業實習のやうには易々と手が出せなかつた。

## 2 工場調査

**工場調査** 實習し見學する教室となる工場の調査を行ふことにした。色々の角度から調べてみたが、その中より兒童への影響を中心とした主な調査事項を上げてみる。

- 工場主の營業上の方針
- 工場生活の良否(衛生上)、工場従業員の生活態度
- 工場主の教育への理解の有無
- 實習可能事項の内容、實習の可能日時
- 厚生施設の有無及びその内容

機關區、染色工場、紡織工場、冷凍工場、製紙工場、自動車修繕工場等、大體十ヶ所の工場を選び上げたのである。續いて國民職業指導所とも連絡をとつて指導と實習の便宜とを要請し

た。

**實習・見學・計畫** 學校の位置が比較的これ等の仕事に恵まれてゐるので、實習や見學への時間は割合都合よくゆく見當がついた。大體子供たちの希望も聞いて月別の見學計畫をつくつた。案によると高等科修業中に附近工場の見學が一通り終ることになるのである。そして出来るだけ目だけの見學に終らない様な方針を立てゝゐる。僅かの時間でも可能な仕事を行つて歸る様な方法を立てゝゐるのである。次は班別實習の計畫を立てた。前にあげた工場に班別に配當して、實習に従事出来る様にしたのである。この場合指導者は必ず班に分れて共に實習するのである。日時は工場と打合はせて學校と出来るだけ矛盾する事をさけた。

之もまだ圓滑な指導とまでは程遠い様である。しかし私たちの今後の問題として眞剣に取組んでゆかねばならぬ大きな仕事であると考へてゐる。

### 3 職場の教育

**正しい職業觀** 或工場を見學した時の子供の手記に、「私が工場の門をくゞつて先づ眼をひかれたのは幾枚も幾枚も壁に貼られた防諜のポスターでした。」と記されてゐる。

これは一つの職業の變貌を見出したものであるとも云ひ得る。防諜といふ一つの糸口から繰つてゆくのではあるけれども、この事を通して職業そのものが國家的な仕事に變貌しつゝある事を見出すことが出来るからである。過去に於てはみられなかつた職場の實相なのである。

子供への職業の指導もこの意味から大いに變らねばならない。過去に於ては家庭の欲する職業と兒童の能力とが一致すれば優秀の方で、大部分は將來の社會的地位や物資の多少が職業選擇の目安でもあつた。これが爲に歪められた職業の實相が我が國の發展を阻害しようとした事が幾度かある。しかし時代はもうかゝる愚を許さなくなつてゐる。家の職業が國家の職業へ明瞭に立直らなければならぬわけである。私たちは又子供たちやその親たちにこの事實を明らかにしてやらねばならない。子供の能力と職業と國家の要求とがびつたり一致する途を選ばせ且進ませる様にしなければならぬ。

私たちの試みの一つの目的は今變貌しつゝあるこの職域の中に身を投じさせて、その轉換を

認識させると共に、正しい職業觀を植付けんが爲である。

**國家と工業** 高度國防國家建設と工業とがどんな關係にあるか、子供たちに判然としてゐるだらうか。勿論理窟の上でや指導者の話の上ではわかつてゐるのだらうけれども、もつとひしひしと身に迫つて來る現實感がほしい。しかしこの切實な工場の國家的變貌の把握は教室の教科書だけの指導ではむつかしく、工場の實習はこれ等の點についてはあまりにも直接的に教へて行く。

「スパイ御用心」とかいたポスターの下でむつとり口を結んだ産業戰士の姿をみて彼等は何を感じるだらう。

戦闘帽を頭に、油にしみながら兵隊の様に動作する人々をみて何と思ふだらう。

彼等の腕から生れ出るあらゆるものが戦争への武器であるのをみてどう考へるだらう。

しかも旋盤を見入る鋭い眼や、精巧な機械を操作する繊細な指や、ハンマーをふる逞しい腕をみて彼等は何を決心するだらう。

私はこんな姿から子供たちは國家と工業の關係をひしと感じ、その戰士たらんには技能と體力の鍊磨の必要な事を見てとるだらうと信じる。そしてこれを職場の教育とも名付けてみたく思ふのである。

**職場の體驗** 自由詩めいた事を書いてしまつたから、續いて子供の作文を引いてこの章を結んでおかう。

「初めて作業場に入った時、僕は激しい雑音にボルトとしてしまひました。こんな事ではと思つて下腹に力を入れて係の方の説明を聞きました。僕たちの仕事は作られた鐵の棒に油をひいて紙をまく仕事です。何んだこんな事と馬鹿にしてやりかけましたが中々隣りの人の様にはゆきません。隣りの少年工はまるで機械の様に指を動かして僕等の何倍もの早さでやつてのけます。暫く夢中になつてやりました。工場では學校の様に四十分毎の休みなんかありません。何んでもない仕事なのに馴れないせいか疲れた様に感じます。ハンマーの音が頭の心まで響いたり、油や埃の匂ひが鼻についたりして來ます。工場の方々は平氣な顔でどん／＼やつて居られます。一人ぼんやりしてゐる僕がなんだか一番駄目な様に思

へて来ました。氣持を變へて又頑張り出しました。

休みのサイレンで休み場に出たら何だかほつとして緑の芝草の上にはつてしまひました。そして美しい庭をながめてみました。泉水、花壇、テニスコートなどがありました。

僕はじつと何でもなしにみてゐた仕事が案外むつかしいものであること、そしてよい身體と心が必要なことなどを反省してみました。

急に僕は職工の方々が立派にみえてなりませんでした。」

(高二男 F作)

## 十五 文化指導

### 1. 科学生活の指導

**生活の科學** 科学生活を指導するには三つの途があらうと思ふ。その一つは生活の中にある科學を發見し成長せしめる事であり、一つは科學振興の施設によつて科學的生活の環境をつくりあげてゆく事、今一つは科學的な指導によつて科學的機能の修練を目標とすることであると考えらる。

科學教育が喧傳される様になると人々はすぐに科學的な設備を整へる事に窮々とし出す。有るかなしの學校の經費の悉くをそれに注入してしまふといふ様な事もよく見られる。この場合もつと手近にある大切なものを見逃す場合の多いのは實に危険なことで、これが科學教育は困難なもの、科學とは特殊なものと思ひこます原因になるのである。

私たちは生活の中にある科學の指導に第一の努力をした。野營の所でも言つた事であるが、

彼等が壕をつくり、生活の調度をつくる事に科學性を見出してゆくことも出来るのである。例へば食器棚をつくる時に用法から来る臺の高低、重量と材料の強弱及び性質等、彼等は考へざるを得ない事になる。天候その他の氣象も無關心では居られない。それと同様な事柄が平素の生活に現れるようにし、現れる機會をつかんでゆくことが大切なのである。

詳らかに述べ得ないが、先づ大切と思はれるのは指導者が子供たちの要求・質問に對應してゆける科學的な態度を生活の上にもつ事である。

**こども科學會** 第二には、この態度の上に特殊な施設を與へて科學への關心を深めてゆく事が重要である。理科工作の擔任の協力によつて造型方面を主とする子供たちの研究會をつつた。そして「こども科學會」といふ名稱を附けることにした。會員は十名許り、主として班の指導者として活躍し得る人物を選んだ。

土曜日の午後、他の日課のない限り工作室にあつまつて指導されるのである。書物による原理の研究と實習とが主な課程である。第一次は滑空機の模型とラジオの受信機の製作に決定し

製作にとりかゝつた。科學會の態度として、製作を急がずつくることによつて原理を理解する事を立前とした。だから製作完了後も精密な検査をやらせた。飛ばぬ滑空機、聞えぬラジオには若い科學者の眼が光るやうにしむけたのである。指導者はあくまで無用の干渉をさけたのである。第一回作品として三臺の滑空機模型と、二臺の受信機とが出来た。

近代都市の模型、動く飛行機等の創作の外、風向器、科學玩具、配電盤等作品は數を増して來た。

發展の一つと思はれるのは我等が中心になつて班作業としてマスク消毒箱の設備、航空に關する研究などが行はれ出した事である。そして今では科學部員が中心となつて學校の科學博物館としての科學廊下が建設され様とするまでになつた。

**模型製作の指導** 主として航空機に關する模型製作は、正課・課外をひつくるめて彼等の受けねばならぬ大切なものになつてゐる。男女の別なく模型滑空機は必ず製作出来るのでなければならぬ。

私たちは零細な時間を利用して紙凧の製作からかゝつた。翼の研究である。次いで厚手の畫用紙で色々の飛行機をつくつてみた。飛ぶといふ事の理解のために之が大いに役立つたのである。それと併行して、飛行機の寫眞、設計圖を蒐集して形態の理解に入つた。シルウエツトの方法、線の抽出等がその指導方法として用ひられた。これだけの過程の後、製作と反省を反復しながら指導にかゝつた。各教室に多くのグライダーが待機する様になつた。

まだ大した成績をあげるに到つてゐないが、校外の競技會に参加した機もある。

古材利用の大型のソリツト・モデルも一機完成した。古椅子を利用して操縦臺を作つて見ようといふ進歩的な計畫も彼等の中に生れてゐる。

地道に、しかも確實にといふのが科學生活の指導の目指す所である事を最後に云つておきた

5。

## 2 生活の教養

**讀書指導** 文化とは生活である。衣食住そのものが文化であると私たちは考へてゐる。文化指

導とは特殊な文化施設についての指導でなく、生活そのものゝ指導であると思へてゐる。この立場から生活といふものを見、新しい日本人としてぬかりのない生活の教養も與へねばと考へるのである。

子供たちは本を読む事が好きである。讀本でも氣に入つた所は實によく讀んでゐる。課外讀物も殆ど全部の子供が讀んでゐる様である。私の學級で本を読む事の好き嫌ひをしらべてみると三十八人中嫌ひといふのが二名であつた。(私の學級は高等科二年の女子組である。)しかし讀んでゐる本、讀み方に到つては雑多で、感心出來ぬ事が多い。二三の實例をあげてみる。

○月刊雜誌を取つてゐるもの 三名(子供の科學、少女俱樂部、少女の友)

○時々購入するもの 三十二名(主として少女向の雜誌)

○全然購入せぬもの 三名

○學科以外の本を買つて貰ふもの 十一名(主として單行本)

○全然本を持たぬもの 一名(貧困の爲ではな)

讀み方

○常に圖書館にゆくもの

五名

○時々圖書館にゆくもの

十八名

○母、姉のものを借りるもの

七名(婦人雜誌が主家の光、青年も二三入つてゐた)

○友人から借りるもの

三十五名

この他に新聞は大體讀んでゐる様であり、少國民新聞を取つてゐるものも多い。

しかし讀書の内容に到つては極めて無系統であり、つまらぬものが多い。いまだに漫畫本に愛着を感じてゐるものもある。と思へば中には藤村の詩集や、純文學にまで目を通してゐるものもある。婦人雜誌の小説や、新聞小説まで無批評に——當り前なんだが——讀んでゐるのである。彼等は求めながら行惱んでゐる形なのだ。我等は彼等に正しい道を與へねばといふ氣持に驅立てられた。

先づよい本を與へる様にしなければならない。それで圖書の整備にかゝつた。日本少國民文庫などを中心に經費難と戦ひながら一冊一冊とあつめてゆく事にした。坪田讓治の作品など子供にわかりやすい文學的なものも加へて行つた。科學關係のもの、時局的なもの、文部省の推

薦圖書を標準に選擇するのである。圖書部を通じて子供たちの希望も入れることにした。

新聞、三種(班に一部づつ)、週報、寫眞週報、子供の科學、開拓畫報、開拓は毎月購入することにした。努めて新刊に目を通す様にして、その紹介を揭示する事にもした。

次は讀方の指導である。圖書室から借出した本を返納する時は必ず讀後感を書かす事にしてその用紙も準備した。かゝれた内容を見ると餘りに幼稚だと思はれる事が多い。第二の指導として讀書會を開くことになつた。機會は始業前三十分、雨の放課後、宿泊訓練の夜などである。多人數になることをさけて班別指導といふ事にした。始業前三十分は定期的に行つてゐる。何でもよいから程度に應じたものをよませて現状を是正してゆく主義である。讀後感の發表、朗讀、内容發表、輪讀、名作の指導など、いろいろの方法によつて發展を期してゐる。今ではどんな本をよんだらよいでせう等といふ質問が聞かれる様になつてゐる。

音樂指導 音樂と生活などと云ふ事は今更云々するまでもなからうから、私たちが生活の指導としてどんなにして歌ひ得る生活、音樂を聞き得る生活をつくらうとしてゐるかを述べる事に



する。私たちは第一に生活と切り離す事のできない所の正しい歌を歌ふ機会と、よい音楽をきく機会とを頻繁に作る事にした。教室に於ける音楽の指導が、ともすれば生命の必然から湧き起るはずの音楽を、生活から切り離されたものに感じるやうになつてゐる生活を本來の姿に、ひきもどさうとするのである。仕事の後に木蔭で子供達と歌を歌つたり、行進をひとりで歌ひ出される子供達の若い聲で色どらせたり、まどろで歌ふ歌は、子供達にとつては強ひられたものでも教へられたものでもなしに、彼等の心の底からなくてはならぬものとして生れ出た聲として育てたのである。私たちはこの機会をつかまへては、正しい歌を教へ、その場合の正しい歌ひ方を指導していつた。

食後の時間を静かにレコードをきく機会にする事もある。夜の校庭で天幕の中に集りながら音楽を鑑賞した事もある。立派な作品を耳にし、深く心に味はふ態度を作つていくことに、こんな機会を利用して努力した。

しかしこれだけではまだ物足りないものがあつた。それで音楽指導の時間を特設して私達は共に歌ひ聴く機会を作つた。こゝでは主として一つの系統の下に彼等の音楽生活を指導してゆ

くのである。

その他の仕事として、少年團の楽器を利用して、楽器指導もする事になつた。選ばれた子供達は喜んでそれに参加した。行進曲、簡単な歌曲などと、子供達はどん／＼進歩しつゝある。

**映畫會** 子供達の生活と、更に子供達の將來の生活と映畫とはきり離せぬ關係を持つてゐるものである。この意味から云つて唯に教材映畫の指導と云ふだけでなく、もつと廣い範圍の映畫に對する鑑賞の指導が必要だと考へられる。私たちは學校の映畫會だけでなく、地方映畫鑑賞會等の機会を利用して、正しい映畫の受入れ方を指導する事にしてゐる。この場合、指導者は必ず事前にその映畫を下檢分して、自分の指導觀と方法とを作つておかなければならない。これによつて子供達に對する前後の指導は正しく綿密に行はれる。この場合の指導は内容のみでなく、鑑賞態度にも觸れなければならぬ。ともすれば今まで學校に於いてさへ亂れ勝ちであつた映畫鑑賞の態度を正していく事が、映畫そのものゝ理解を正しくし得る事にもなる。

學校の映畫會の映寫は、すべて子供達に行はした。子供科學會の會員を中心に、映寫の方法

や、簡単な修理、原理の指導も平素から行つてゐるのである。又、撮影も文化部の仕事としてやる事になつた。まだ充分な設備を得てゐないが、五百呎ばかりの作品が出来上つてゐる。映寫したり撮影をしたりする事は、科學指導として意義があると共に映畫そのものに對する正しい理解の態度を作ることになると考へてゐる。

### 3 興亞教育

興亞科の特設 興亞教育の一翼として興亞科の特設をした。興亞の理念に徹せしめるために國史と地理を主體として系統案をつくりあげた。國史は國家に流れる血を呼び醒すために、地理は國土を流れ、東亞にひろがる血を認識させ、更に世界を展望する眼をつくるが爲のものである。時間は月・木の二日を毎週之にあて、取ることにした。又臨地指導、文化指導、まどかの時間もこの意義を持たなければならぬ。

計畫は第一の試案として次の様に立てられた。

歴史	地理	歴史	地理
五月 神勅について	東亞共榮圈	十一月 南方發展史	資源と國防
六月 古事記	滿洲	十二月 大日本史	同 右
七月 神社	支那	一月 本居宣長	世界の日本
八月 日本文化	南方東亞	二月 明治維新	同 右
九月 武士道	獨伊の活動	三月 現代	同 右
十月 神皇正統記	歐米の國防		

時局解説 以上によつて興亞教育と云はれるものが兎もすれば近視眼的にならうとする傾向を是正して、それに永遠の生命を持たさうとした。併しそれと共に激しく變轉してゆく時局への認識をもたす事も大切である。子供たちには新聞を與へ、適當な作業もさせる様にした。しかしこれだけでは我々の目指す様な結果が得られるとは思つてゐない。

私たちは時局掲示板を作ると同時に、時局解説の時を設ける事にしたのである。朝會の後、

修身の時間、地歴の時間は勿論、作業の一休みといふ機会もこれにあてて有効に時をつかつてゐる。

以上の二項は興亞教育の全てではなく、その片鱗であると考へて戴きたい。

#### 4 揭示教育

**揭示場の經營** 今までにやつて來た様な色々な仕事は當然揭示場の完成を必要とした。學年の教室の廊下と、階段とその上下の踊場に之をつくることにした。

倉庫から出て來た古黑板や板切、古机を構成してゆく計畫が出來た。

告知板、作品揭示場、時局解説の壁面、教科参考資料揭示場の四つに大別して經營する事になつた。建設は全て子供等の奉仕によつて行はれるのである。はじめは平面的なものであつたが、新聞や雑誌の閲覧所を併置することが合理的だといふので古机が運ばれてからは揭示も立體的となつて來た。

班別に責任をもつて、各役員の指導によつて運營してゆくのである。

一寸便利だし、極めて興味のある仕事でもある。

**動く學習** 動く學習といふか、働く學習と云ふか、兎も角、揭示板の運營をうまくやつてゆくためには絶へず子供たちは材料の準備をなさなければならぬ。しかも公表をし、それが直接友達の知識に影響を與へるのであるから無責任な態度は許されない。

新聞の精讀、切抜、資料の蒐集、構成、學習資料の作成、各種作品の製作などと子供たちの學習は極めて作業化されて來た。

學習する教材と全てが一致する機縁にもなつて來た。教材によつて作業をする。それによつて理解は深まる。見るものも直觀の學習が出來てゆく。二つのものが止揚しあつて更に躍進するといふ、良い傾向がみられる様になつた。

揭示されたものは一切、種類別に整理され保存されてゐるから年月がたつにつれて、生きた教材資料集成が出来るものと思つてゐる。

展覽會 揭示教育の進歩は展覽會として私たちが特別な勞力をこれのために費すことはなくなつた。こゝで訓練された子供たちは自分等で選んだ作品をうまく構成して展覽會の體裁をと、のへる。催し物的な展覽會をさけて、末梢に走る態度をさけてゆきたいと思つてゐる私たちの主旨とびつたりしたものが出来るわけである。

作品の作成、會場の作成、鑑賞、この三つが教育的に子供等の力によつて出来る展覽會が平素の揭示教育から生れようとしてゐるのは私たちの大きな收穫である。次に私たちの學校の展覽會の計畫を附記しておかう。

四月	自由	五月	風景寫生展
六月	ポスター展(時の記念日、海軍記念日)	七月	支那事變展
九月	休暇中作品展、航空展	十月	自由
十一月	體育祭に關する展覽會	十二月	圖案展
一月	書初展	二月	製圖圖案展
三月	卒業生作品展		

### 5 兒童の文化活動

學習設計 「地理、大氣、天氣圖の研究、水素、酸素、窒素の事を復習してゐること。」

或ひは又、「待賢門の戰、平治物語を一讀しておくといと思ひます。圖書室にありますから利用して下さい。」などの告知は文化部員がした揭示である。學習を効果的ならしめ、又惰性的でなしに研究的ならしめる様に學習の設計の必要を云つてゐる。彼等は他の子供たちに率先して教科に目を通し、必要な事項を互に研究しあつて一般に告知する。全體はこれ等を書止めておいて家庭學習の手引にしたり、計畫の骨子にしたりする。時としては教材の研究とか、鑑賞文とかを印刷して配布する様な事もある。

統一ある、そして準備のある學習が出来る様になつた。

學年週報發行 私たちが今までやつてゐた學級週報は學年週報に生長した。週刊であつたが用紙節約から月二回にしたが、内容は、重要時事、通達事項、學習設計、作文、その他の紹介等

である。科學のメモ等といふ氣のきいたものも表はれる。研究物の發表なども行はれる。發行は相當の楽しみをもつて待たれるものである。時としては作文集などを出すこともあるが、これ等の仕事一切——編輯には指導者も参加する——は、原稿募集・原紙切りから印刷に到るまで全て子供達の手で行はれることは學習設計と同様である。殊にこの頃は紙の使用に關してまで子供たちの研究がすゝめられてゐる。

## 十六 まごゐ

### 1 「まごゐ」の目的

「まごゐ」の意義 「私たちは共に集り、膝を交へることの出来る同胞であります。お互の血の中には、神代にこんなにして同じ様に環をつくり、手を取りあつた私たちの祖先の血が流れて居ります。こんなにまごゐすることによつて私たちがお互に皇國の民である事をもう一度はつきり知りあひませう。」私たちはまごゐの時々に、ことばは違ふがこんな意味のことをその始めに口にする。一所にあつまつて一つの環をなすことだけでも大きな意義がある。お互に顔を見あはせただけでも楽しい氣持になる。それから私たちはこゝで全てを捨て去つて睦みあひ、語りあひ、歌ひ、遊ぶ、これ等を通して氣持と氣持の交流をなし、日本人としての心の淨化も止揚も楽しみの中になすのである。又、環の中から話した指導者のことばが、常になく身近に感じられ、永劫に胸に焼きつかれるものである。

「まどろ」は安らかな氣持である。しかも次への新しい生氣も湧く。憩ひの本當の姿もこの「まどろ」の環の中に生れる。私たちの求める心の底から湧出る團結の力もこれによつて強められてゆくのである。

理窟ではない。一つに集る、それだけでも意義深い事なのである。

「まどろ」の機會 だから私たちは常に「まどろ」をする。別にむづかしい格式も規則もない。作業の間、運動のあと、宿泊訓練の夜、野營の時、それから又子供たちだけでも折にふれ、隨所で「まどろ」をする。

しかし「まどろ」と特別に名付けられるのは野營の篝火の「まどろ」、宿泊訓練の夕の「まどろ」、業後の「まどろ」の三つである。それ／＼三つはことなつた味はひとしきたりとをもつて來るようになった。三つについてはその記録によつて明かにしたいと思ふ。

参加する子供 その前に子供達の側から「まどろ」を見てゆきたい。

孤獨なこと、しめやかな事の嫌ひな子供たちは心から喜んでこの集りに参加する。そして閉づることなく心を擴げて語り合ふのである。素材・明朗・従順といった様な古代日本人の生活を流れてゐた嬉しい氣持が子供等の心の中に流れるのを感じる。

これは單なる興味からくる利那的な享樂ではない。指導者の話す事毎に瞳の輝きを増して聞き入る姿は眞剣である。安心しきつた氣持で皆と膝を交へることが何とも云ひ得ない印象を與へるのである。私は何時も子供と共に「まどろ」をする毎に、光圀公がその半生を送つた西山莊に闌のない部屋にゐる國の聲を偲ばれた事が肯けさうな氣がする。

子供たちは創作をし、發表する。格式張らぬ所がよりこの活動を活潑にする所以でもある。教室で朗讀した事のなかつた子供が進んで讀本を讀んだりする事も珍らしい事ではない。

こんなにして彼等は日本文化の香りを知り、祖先の人々のもつた精神を心に活かすのである。

## 2 「まどろ」の手記

作業後の場合 一汗した後の綠蔭の「まどろ」は主として憩ひの意味をもつてゐる。一働きし

た後、緑の木蔭で涼風に吹かれながら青空を眺める時の氣持よさは、働くもののみがもち得る氣持である。

靜かに、樂な氣持で話合ふ。作業のこと、農作物のこと、日本のこと、學校のこと、自然のこと、こじつけの話ではいけない。自然に生れて來る時々の氣持を巧みに捕へて話したり歌ったりするのである。話がなければ黙つてあたりの景色をながめる。こんなにする事によつて子供たちは常とは異つた新しい感激をもつて全てをうけ入れるのである。「今、汗したこの仕事はやがて國家の力となる。」ことなどが話題になつた時などは、彼等は勤勞の誇と、よろこびとを感じる。

或ひは合唱をする。自からが歌ふ歌聲に聞き入りながら私たちはいつも「まどる」のよろこびを感じるのである。

宿泊訓練の場合 子供たちが一日の働きを終へた頃はもう夜になつてゐる。勤勞に身をうちこんだ子供たちは疲れを感じてゐる。休養のために憩ひの時を與へてやるのが「夕のまどる」であ

る。たゞ休むだけでなしに、疲れによつて全ての雜念を捨てた時に、働き得るもののみが經驗し得るよろこびを與へてやるといふ積極的な機會にしなければならないのである。

一つの灯の下に、そして墨のしかれた部屋に集る。時としては文化指導の時間と續いたり、或はそれの中に含めて考へる事もあるが、そのはじめには常に「まどる」のもつ意義を靜かに心の中で繰返してみる。そして指導者の物語を聞く。話の内容は限定しないけれども、この時の子供たちの氣持とびつたり一致する態度で撰ばれ、取扱はなければならない。時間は短いが精神訓練として極めて大切な事柄として私たちはこれに對してゐる。

豫め兒童文化部の役員によつて構成された發表會がひらかれる。彼等は唱ひ、朗讀し、舞踊する。科學的な實驗や、體驗の發表もする。まつたく我が身をその中に没入しきつて時を過すのである。又生活をたのしむ時である。かうした時に兒童の心は渾然とした——人もその部屋も、とけ合つて——雰圍氣がみなぎつてゆく。これ等が生活の中から生れ出た學習でもあると思へば大きな教育的な意味をもつ機會なのである。

或時は映畫指導も行はれる。科學會員が中心になつて映寫が行はれ、一般班員はこれ等の技

術を修得するのである。修理や原理の指導を映寫機中心にやつてゆくのも都合がよい。

もう夕禮の時間が迫つて来た。

子供等は清らかな心を持つて、明日の生活へ希望を抱きつゝ眠りにつく。

野營の場合 月が出る頃に子供たちは草の上に集る。私たちはこれを「篝火のまどろ」ともよんでゐる。

黙して心を静めて「まどろ」のころを胸に刻むうちに、積まれた薪に火が點される。私たちはじつと一點の火をみつめてゆくのである。おのづと心は一點にあつめられ、つくられた輪のつながりをいよ／＼強められて行くやうな心地のする瞬間である、この時指導者はこんな意味の事を物語る。

「皆がこんなにして火を圍んだ様に、神代の私たちの祖先もこんなにして夜をすごしたのでせう。その血がお互の中に同じ様に流れてゐるのだ。この「まどろ」によつて私たちは一つの心になつて清らかな生活に入らう。そして日本人としての自覺をもたう。」

ハーモニカを吹く子を中心に歌を唱ふ。一人増え二人増え、環の全てがこれに和す。

草の上に、子供等は手足をのばして創作の舞踊を發表する。手足に國土の感觸がひし／＼と迫り、篝火はこの姿を印象的に彩る。

話す子供の聲は、山の木々にまで浸込むまでに澄み切つて聞える。

子供等は、行ふものも、受入れるものも全てを夜と篝火の二つによつて何時も味はひながら清らかな心境になつて行くのである。私達は情操の醇化と云ふ言葉は、こんな時にのみ使ひたいやうに思ふ。

「池の小波が月の光にきら／＼してゐました。堤の上の草原に私たちは「まどろ」をしました。山の方で山鳩らしい聲がきこえます。

もえてゐる薪の光に照らされて、歌つてゐる人の姿がくつきりと浮んでみえます。私たちも一しよに若人といふ歌をうたつた。本當に氣持よく歌ひました。

野營のまどろが私たちにとつていつまでも忘れられない思ひ出であると私は歌ひながら感じました。」と、子供は日記の中に語つてゐる。



## 十七 女兒の訓練

### 1 指導の領域

素朴・明朗・従順 今まで書き記して來た事は勿論女子への指導も含まれてゐるのであるが、特別取り出してみたい事だけこゝにまとめて二三抜書してみる。

婦徳の涵養といふ事が云はれるが、これがともするゝ消極的なあり方に解されてゐる。正しい意味の婦徳の涵養といふのは、おとなしいとか、行儀作法のとゝのつたと云ふ消極的なことだけを指すものではない。

日本の女子には積極的な興亞戰士の氣魄と古代の女性に見るやうな素朴さ、明朗さ、従順さがほしい。古代日本の女性が素朴であり、明朗であり、従順であつたことは詩歌によつても伺はれるのである。しかるに今日の女性はこれ等の特性を失つて、現實的享樂に迷されてゐる感がある。

私たちは運動とか、肉體的作業とか、新しい世界への直面とかを機會として、潑刺として健康な未來の母をつくりたく思つてゐる。律動體操、舞踊、音楽、教練等は勿論この意圖の具體化されたものである。

女子の態度 だが、その中に女らしい姿が見出されねばならない。女らしい事が女のあり方を最も尊いものにするこゝにはいふまでもない。

女には女としての道があると共に女としての仕事があり、やり方がある。私たちはこの仕事を通じて女の道を體得させ、あり方の指導をしたいと思つてゐる。以下に記してゆく事は女としての仕事を通じて婦徳の涵養をしていかうとする具體的な姿なのである。

修服作業 釦の取れてゐる子、破れたズボンを平氣な子ども、名札をつけてゐない子ども、子供達の服装は相當亂れてゐた。容儀をとゝのへることは同時に心を正しくとゝのへることなればならない。こゝに氣付いた私達は自分達の受け持つ女兒の校内に於ける任務の一つを見

出した。早速指導者會議で具體案をねり、修服作業が子供の手で開始された。風紀生と連絡して服装の修理改善をやり出した。弟や妹に對する様な態度で熱心に事は運ばれた。はじめのうち一日に二百人からの修理をした。始業前三十分、中食後、放課後の三十分、これが勤勞の時間である。二百人もこられては眼が廻る様である。しかしこれで學校がよくなるのだと思へば嬉しい忙しさであつた。今ではグンと減つた。風紀係の服装検査に注意されるものも殆どなくなつた。この事實は彼女等に誇りと喜びを與へたと同時に自分等の仕事の領域を自覺させた。

**低學年輔導** 高等科にもなれば積極的に幼い子供等の日常を世話させることが、現在の爲にも將來の生活にも大切なことである。幼兒の行動を理解する時にもなり、自分たちのやさしさや落着きを見出す時にもなる。それ低學年輔導の仕事をはじめ、五名宛交代で四組ある一年生の教室へゆき、朝々の道具仕末から便所ゆき、遊びの管理と指導をやらせた。どんな子供でも一年生にはお姉さんである。この姉さんの誇は同時に義務感でもある。そこに眞剣な實習が生れて來る。時折簡単な兒童の心理や養護上の注意について指導をしてやる。校外へ出かける時など

は五六人の一年生に圍まれて一人一人が責任をもつて引率することにした。殊に入學當初の一年生には都合が大變よかつた様である。又二・三年の掃除にも二名宛の輔導員を出した。率先垂範させ、監督、指導の助手になるのである。これ等は豫想以上の成績でどちらからも喜ばれてゐる。

子どもたちは、おかげで學校の姉さんになつてしまつてゐる。

## 2 家庭教育

**家庭連絡** 女子の教育の成功は何と云つても家庭に於ける躰が大きい力をもつ。だから女子の指導については極力家庭との連絡を取ることに努めた。第一こちらの方針と喰違ひのある様な風が家にあつてはならない。殊に新しい試みや精神のもられた指導についてはその必要を感じた。父兄會の會合を座談會にして膝を交へて話し合ふことにしたのも、先づ家庭の改善からといふ所にねらひ所があつたのである。又、書籍の回覽をやつたり、参考物の印刷を配つたりもした。

しかし最も都合のよいのは、今年から學校ではじめた母親學校がある事であつた。この講義（月二回）の時間を活用して、なるだけ私達の仕事を理解していただくやうに教室へまねき、母親自身にも新しい女性のあり方を體驗してもらふ様にした。又この機會にこちらの生活の見學が出来る様にも計畫した。

**家庭への希望** 家庭で兒童を指導される場合に一つの計畫をもつてもらふ事と、効を急がぬ事を希望した。兎角女の子は便利であるから無暗に使つたりする。云はれたものは何もわからずに働く事が多い。これではいやがる様になるのも無理からぬ事である。一定の職域を與へ、一つの計畫を與へてやれば、相當重要な家庭業務でもよろこんでやるものである。

次に積極的に働く習慣をつけてもらへる様に望んだ。職域と計畫さへ與へれば自づとこれもやれるわけである。手傳の域を脱してもう一役を分擔する事が出来ようし、女の修練としてかかる實務を通してやらせるのが最適とも考へられる。

尙運動に對する理解と援助、生活態度の明朗化、などを希望したのは當然の事である。

### 3 宿泊訓練中の分擔

**持場の認識** 前節の様な事が學校で行はれるのが宿泊訓練の場合である。彼女等はこの場合、特に炊事・救護・洗濯などを引受ける。こゝで指導すべきことは職域の認識と、その認識の下に行に専念することであつて、そこからはじめて男女の正しい協力が生れてくるのだといふ事である。兎もすれば女は自分たちの仕事を蔑視し、成べく避けようとする氣風がある。家を外にして社會的に活躍する人が、假令女子の大切なつとめを、わすれてゐても偉い人だと云はれてゐる現在である。

女には女本來の仕事がやり甲斐のある重要な仕事だと確認さす事が極めて大切なのである。

**指導の方針** 仕事を實習させる時、第一に指導したい事は、女子の缺點とする合理的・科學的な作業と云ふことである。炊事に例をとつても日本の婦人は集團炊事などは不得手である様だ。日本人の性情がさうさせてゐるのだ、といふ見方もあらうけれども、そんなことはいつて

をれない。集團炊事がうまく出来ないなどといふことは作業が合理的でないからである。だから子供たちには調理の仕方、道具のおき方、分配の方法、配膳等、合理的な計畫のもとに營む生活訓練をなすことが大切なのである。

科學的な仕事のし方も大いに指導せねばならない。私達は炊事場の科學、洗濯の科學、いくらでもある素材をとらへて、ぐんぐんつつこんでゐる。

豊かな心 しかしこれだけでな日本婦人は出来ない。日本の家の食膳には科學の調理の上に匂ふ人間味のある豊かな心が必要である。

女の子供には自分達の手によつて營まれて行く仕事、よしどんなに小さなことであつても人の心を潤し、和をかもし出し、生命の力をいやが上にも發揮させる不思議な力を持つてゐることを悟らせたいと願つてゐる。男に對して持つ女性の目に見るやうな柔らかさ、美しさに満ちた心の鍊成こそ女子教育の最後の目安でなければならぬ。

女子教育の目的をつゞめて云へば「豊かな心を興へる事」これになるかもしれないと考へる。

## 十八 社會に於ける兒童

### 1 時局即應の體制

町の組織化 四年前、校外での生活を指導する組織をつくる必要に迫られて、學校少年團通學分團といふものがつくられた。勿論地域別によるもので、自然に子供たちが遊ぶ時に一つの塊りをつくり、一つの秩序が出来てゐた。これを組織的にし、指導を加へ様と試みたものがこの活動の起りである。大體一町を一分團として、兒童の人數の少ない町は數ヶ町合併して四十ヶ町ある所を二十四分團にまとめた。團員は三年以上の全員、先生が指導員として一人宛付き、分團長、少年少女隊長、班長を兒童の中から任命した。これによつて校外生活を指導し遊戯、學習、その他の社會生活を善導して行かうと云ふのである。

しかし、ともすると消極的な校外生活指導になり、その徹底を欠き、常に問題とされてゐた。所が新青少年團の誕生と共にこの町での組織は學校と凡てに一體とならねばならない状態にお